

令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

令和6年10月6日現在

部門	事業番号	事業名	内容	ページ	所管部
森林部門	1	環境保全林整備事業		1	林政部
	2	里山林整備事業	①危険木の除去	3	
			②バッファーゾーンの整備	5	
	3	脱炭素社会に貢献する森林づくり事業	①被害森林等での早生樹等の植栽等	7	
			②森林吸収源対策	9	
	4	教育福祉関連施設木造化・木質化等促進事業	①木造化、内装木質化	11	
			②木製品の導入	13	
	5	木質バイオマス利用促進事業	①木質バイオマス利用施設の導入	15	
			②未利用材の搬出	17	
	6	ぎふ木育推進事業	①－1ぎふ木遊館の管理・運営	19	
			①－2ぎふ木育の全県展開の推進	21	
			②ぎふの木を使った教材の導入	23	
			③森や木、川に関する環境教育やぎふ木育教室の開催等	25	
	7	森林空間活用促進事業	①観光道路周辺の観光景観林の整備	27	
			②森林空間の活用を図るための施設の設置・改修	29	
			③森林空間を活用した活動の普及促進	31	
環境部門	8	野生鳥獣個体数管理事業	①ニホンジカの個体数管理を目的とした捕獲等	33	農政部
			②ニホンザルの個体数管理を目的とした捕獲	35	
			③カワウやカワアイサ及びサギ類の個体数管理を目的とした捕獲	37	
			④大学等と連携して行う野生動物管理に関する調査研究等	39	環境エネルギー生活部
	9	自然生態系保全・再生事業	①上下流域が連携した河川清掃活動の実施	41	県土整備部
			②河川魚道の改修及び適切な維持管理	43	
			③水田魚道の設置等による水みちの連続性の確保及び効果検証	45	農政部
			④生物多様性の保全・再生の普及啓発	47	環境エネルギー生活部
			⑤生態系保全・再生に係る活動支援	49	環境エネルギー生活部 農政部
	10	脱炭素社会ぎふづくり事業	①脱炭素社会ぎふを支える人づくり	51	環境エネルギー生活部 農政部
			②地域循環共生圏構想の促進	53	環境エネルギー生活部
共通部門	11	清流の国ぎふ地域活動促進事業		55	林政部 環境エネルギー生活部

# 事業評価の考え方について

審議会のご意見を踏まえ第2期より、自己評価については、事業実績(事業量、事業費)の進捗率に基づき、評価を実施しています。

## ○実績検証の評価区分

評価項目の進捗率	自己評価
90%以上	妥当である(成果が高い)
70%以上、90%未満	概ね妥当である(概ね成果が高い)
50%以上、70%未満	あまり妥当でない(あまり成果がない)
50%未満	妥当でない(成果がない)

※原則、上表のとおり評価しているが、「事業投資」の進捗率は低いものの、「事業結果」の評価区分で「成果が高い」と評価した事業については、「事業投資」の評価区分を【妥当である】又は【概ね妥当である】と評価する。

## ○自己評価の区分

評価項目の進捗率	自己評価
90%以上	高く評価できる
70%以上、90%未満	概ね評価できる
50%以上、70%未満	あまり評価できない
50%未満	評価できない



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要


①概要等	実施事業年度	令和6年度					
	部門	森林部門					
	事業名	環境保全林整備事業					
	事業主体	市町村、森林組合、林業事業体、NPO法人 等					
	事業概要	「環境保全林」における間伐等の助成					
	事業開始年度	平成24年度					
②事業目的	・森林所有者による森林整備の実施が困難な水源地域や渓流域、急傾斜地等の森林における公益的機能の維持向上のため、各種団体が行う間伐等に対して支援を行う。 ・環境保全林の人の生活圏に近い里山林エリアにおいて、公益的機能向上とあわせて地域住民の生活環境の保全のため、不要木除去等に対して支援を行う。						
③事業内容	○環境保全林整備事業費補助金 市町村森林整備計画で環境保全林に区分された水源林、溪畔林等において間伐を実施。 ・補助先：市町村、森林組合、生産森林組合、森林組合連合会、森林整備法人、林業事業体、特定非営利活動法人等 ・補助率：10／10（県の定める標準事業費が上限、関連条件整備38千円／ha）						
④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
	（人工林の間伐等） 10,500 ha		2,100	2,100	2,100	2,100	2,100
	4,414 ha		1,595.52	1,462.13	1,356.75		
	事業費（千円）		475,555	464,747	416,490		
	内訳	森林・環境税	475,555	464,747	416,490		
		（うち前年度繰越分）	128,377	122,018	199,715		
		他（国庫補助金等）	0	0	0		

2 自己評価

(1)実績検証(令和5年度繰越分を含む)

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ事業費	指標名	補助金額		543,719千円	416,063千円	77%	<input type="checkbox"/>	妥当である	・事業費は、計画値の77%(前年度繰越含む)の実績、事業結果は計画値の65%(前年度繰越含む)の実績となった。 ・林業労働災害の発生や労務不足が生じた林業事業体があったなどの理由により、計画値を下回った。
		考え方	事業全体のコスト					<input checked="" type="checkbox"/>	概ね妥当である	
		指標名			<input type="checkbox"/>	あまり妥当でない				
		考え方				<input type="checkbox"/>	妥当でない			
	Ⅱ事業結果	指標名	整備面積		2,100ha	1,356.75ha	65%	<input type="checkbox"/>	成果が高い	
		考え方	森林の公益的機能が回復した面積					<input type="checkbox"/>	概ね成果が高い	
		指標名						<input checked="" type="checkbox"/>	あまり成果がない	
		考え方						<input type="checkbox"/>	成果がない	

(2)実施状況写真

⑦ 実施 状況 写真	実施前		実施後	
				
	【実施状況(海津市南濃町志津 地内)】			



(3) 効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有	
	<b>【実施方法等】</b> ○林野公共事業における事前評価マニュアルに基づき、洪水防止便益、水質浄化便益、流域貯水便益、土砂流出防止便益等について費用便益分析(B/C)を行う。 ○事業実施前後と実施3年後及び5年後の森林の状況の変化を確認(箇所を抽出して確認) 《モニタリング項目》(ア)林内の光環境、(イ)林床の被覆状況、(ウ)土壌の状況、(エ)生物多様性 ・施業前              :事業実施主体が、(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)を調査 ・施業後              :事業実施主体が、(ア)を再度調査 ・完了確認時        :農林事務所等が、(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)を調査  ((イ)、(ウ)、(エ)は、書類内容等の確認) ・3年後及び5年後    :県が、(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)を調査  <b>【検証結果】</b> ・これまでにモニタリング調査が完了した箇所のうち、データが整っている98箇所の結果を分析した結果、樹形(形状比)の改善林分割合は約6割、林分密度(収量比数)の改善林分割合は約8割、下層植生被覆率の改善林分割合は約8割であった。 ・引き続き、モニタリング調査結果の集計分析を実施し、その結果について今後報告を行う。		

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己 評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	・令和6年度実績は計画値に対し65%の実績となった。 ・再造林に労務を要した林業事業体や林業労働災害の発生に伴い、労務不足が生じた林業事業体があったなどの理由により、目標値を下回った。 ・これまでのモニタリング調査結果から、下層植生の改善林分割合が約8割であること等を確認している。 ・事業実施に必要な労務を確保するため、再造林の省力化を図るとともに、他の森林施業との調整や林業労働災害の発生防止を林業事業体等に働きかける。また、林業事業体が3月から5月に事業を行いやすくするために、補助金申請方式に事後申請を取り入れ、3月から5月にかけての事業量拡大を図っていく。

3 第三者評価

⑩ 第 三 評 者 価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・自然条件や労働条件など様々な制約があることは理解するが、重要事業なので、目標値を着実に達成することが望まれる。



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	<div>○里山林整備事業費補助金</div> <div>気象害による倒木の防止など、地域住民の生活環境の保全を図るため、集落に隣接した生活保全林等の整備を支援。</div> <div>【生活保全林整備タイプ】</div> <div>・対象森林:生活保全林</div> <div>・補助率等:必要経費積上げ額以内の額 (共通仮設費、間接費は国が定める率以内とする。)</div> <div>【森林地域外危険木除去タイプ】</div> <div>・事業内容:地域住民から除去の要望が強い森林計画対象外の危険木で市町村が特に必要と認めるもの</div> <div>・補助率:2/3(上限100万円/箇所)</div> <div>・事業主体:市町村</div>					
	部門	森林部門							
	事業名	里山林整備事業 (①危険木の除去)							
	事業主体	市町村、森林組合、林業事業体、NPO法人 等							
	事業概要	「生活保全林」等内の地域住民の生活に支障をきたす危険木の除去							
	事業開始年度	平成26年度							
②事業目的	・人命に関わる可能性の高い保全対象(民家等)の、倒木の恐れがある樹木を除去することにより、地域住民の生活環境の保全を図る。		④計画	5年間の計画値	R4	R5	R6	R7	R8
				350 箇所	70	70	70	70	70
			⑤事業実績	163 (154) 箇所	76 (73)	51 (46)	36 (35)		
				事業費(千円)	142,814	115,013	108,332		
				内訳	森林・環境税	136,298	110,718	106,034	
					(うち前年度繰越分)	0	0	0	
					他(国庫補助金等)	6,516	4,295	2,298	

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	補助金額	119,972千円	105,950千円	88%	<input type="checkbox"/> 妥当である	<div>・事業費では、計画値に対し、88%の実績となったため、「概ね妥当である」とした。 ・事業結果では、計画値に対し、50%の実績となったため、「あまり成果がない」とした。 ・前年度と比較し、実績量が減少しているが、物価の高騰により事業費ベースでの実績は、同程度であり地域の要望箇所はカバーできている。</div>	
		考え方	事業全体のコスト				<input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である		
		指標名				<input type="checkbox"/> あまり妥当でない			
		考え方				<input type="checkbox"/> 妥当でない			
	Ⅱ 事業結果	指標名	危険木の除去(森林地域外を除く)箇所数	70箇所	35箇所	50%	<input type="checkbox"/> 成果が高い		
		考え方	森林内の危険木を除去した箇所数				<input type="checkbox"/> 概ね成果が高い		
		指標名					<input checked="" type="checkbox"/> あまり成果がない		
		考え方					<input type="checkbox"/> 成果がない		

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真

実施前

A photograph showing a dense forest with many trees, including some that appear to be in poor health or at risk of falling. The trees are mostly green, but some have yellowing leaves, suggesting autumn or decay. The forest is thick, and the ground is covered with fallen leaves and branches.

実施後

A photograph showing the same area after tree removal. The forest has been cleared, revealing a more open landscape. A house with a traditional Japanese roof is visible in the background, and a cleared path or area is in the foreground. The ground is covered with brown earth and some remaining vegetation.

【事業実施箇所の整備状況(美濃市)】



(3) 効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法: アンケートによる ②検証項目: 整備後の里山の状況、事業主体や地域住民の評価 ③アンケート対象地: 抽出箇所(1事業実施箇所につき1団体以上) ④アンケート頻度: 整備後の1回(翌年度5月)	
	【検証結果】 アンケート調査結果は以下のとおり。 ○森林・環境税を活用しての里山林整備(危険木の除去): 「とても良かった」「良かった」 100.0% ○森林の保全再生について意識は高まった : 「非常にそう思う」「ある程度そう思う」 91.8% ○住民周辺の安全・安心 : 「非常に向上した」「ある程度向上した」 100.0%	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己 評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる	・地域の要望に沿った里山林整備(危険木の除去)を推進している。 ・計画数70箇所に対し、実績は35箇所の実績率50%となったが、地域から要望のあった箇所は全て整備した。 ・実施箇所における地域住民等へのアンケートでは回答者全員が「整備して良かった」、「住宅周辺の安全・安心が向上した」と回答し、地域のニーズに応えることができた。 ・近年、岐阜県内では「台風による風倒木」や「大雪による雪害木」など新たな危険木が広範囲で発生していないことから要望は減少しているが、住民の安全・安心に資する重要な事業であるため、引き続き、効果的な事業実施に努める。
	<input type="checkbox"/> 概ね評価できる	
	<input type="checkbox"/> あまり評価できない	
	<input type="checkbox"/> 評価できない	

3 第三者評価

⑩ 第三 者 評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・危険木の本数を前もって見積るのは困難であるため、今後は、計画値を地域からの要望数とするなど見直す必要がある。現時点では⑨自己評価で総合評価の評価区分の記載が、事業結果の進捗率と大きく乖離しているため、次期に向けて、評価の方法を十分に検討すること。



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	○里山林整備事業費補助金 野生鳥獣による被害の軽減や生物多様性の保全を図るため、集落に隣接した生活保全林等の整備を支援。 【バッファークーンの整備】 ・対象森林:生活保全林 ・補助率等:上限700千円/ha						
	部門	森林部門								
	事業名	里山林整備事業 (②バッファークーンの整備)								
	事業主体	市町村、森林組合、林業事業体、NPO法人 等								
	事業概要	野生鳥獣等による被害を軽減するためのバッファークーンの整備								
	事業開始年度	平成26年度								
②事業目的	・集落、農地周辺等の森林において、人と野生鳥獣の生活域のバッファークーン(緩衝帯)を整備することにより、野生鳥獣による被害の軽減を図る。		④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
				200 箇所		40	40	40	40	40
			⑤事業実績	112 箇所		44	39	29		
				事業費(千円)		41,599	56,932	35,841		
				内訳	森林・環境税	40,174	44,963	31,025		
					(うち前年度繰越分)	0	0	0		
					他(国庫補助金等)	1,425	11,969	4,816		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分	理由
	Ⅰ 事業費	指標名	補助金額	35,470千円	31,025千円	87%	<input type="checkbox"/> 妥当である	・事業費は、計画値に対し、87%の実績となったため、「概ね妥当である」とした。 ・一方、事業結果では、計画値に対し、73%の実績となったため、「概ね成果が高い」とした。
		考え方	事業全体のコスト				<input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である	
		指標名					<input type="checkbox"/> あまり妥当でない	
		考え方					<input type="checkbox"/> 妥当でない	
	Ⅱ 事業結果	指標名	バッファークーンの整備箇所数	40箇所	29箇所	73%	<input type="checkbox"/> 成果が高い	
		考え方	バッファークーンを整備した箇所数				<input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い	
		指標名					<input type="checkbox"/> あまり成果がない	
		考え方					<input type="checkbox"/> 成果がない	

(2)実施状況写真

⑦ 実施 状況 写真	実施前	実施後
		
	【事業実施箇所の整備状況(山県市)】	



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有	
	【実施方法等】 ①検証方法: アンケートによる ②検証項目: 整備後の里山の状況、事業主体や地域住民の評価 ③アンケート対象地: 抽出箇所(1事業実施箇所につき1団体以上) ④アンケート頻度: 整備後の1回(翌年度5月)		
	①検証方法: カメラモニタリングによる ②検証項目: 野生動物の出没状況の変化 ③検証対象地: 事業地のうち抽出箇所(2箇所) ④検証頻度: 整備前(R6)、整備後(R7)		
⑨ 自己評価	【検証結果】 アンケート調査結果は以下のとおり。		
	○森林・環境税を活用しての里山林整備(バッファゾーン整備): 「とてもよかった」「よかった」		96.5%
	○今後、森林の保全再生活動に関わりたい		: 「非常にそう思う」「ある程度そう思う」 82.1%
	○野生鳥獣の住宅等への出没		: 「非常に減りそうだ(減った)」「少し減りそうだ(減った)」 85.7%
	○野生鳥獣による農業被害		: 「非常に減りそうだ(減った)」「少し減りそうだ(減った)」 85.7%

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる	・地域の要望に沿った里山林整備(バッファゾーンの整備)を推進している。 ・計画数40箇所に対し、実績は29箇所の実績率73%となったが、地域から要望のあった箇所は全て整備した。 ・地域住民に対するアンケートでは、里山林整備を行ってよかったという意見が96.5%となり、地域のニーズに応えた整備を実施した。 ・野生動物による被害の軽減には、バッファゾーンの整備に加えて整備後の管理など様々な対策も重要であることから、引き続き、関係部署との情報共有や効果検証を実施し、効果的な事業の推進に努める。
	<input type="checkbox"/> 概ね評価できる	
	<input type="checkbox"/> あまり評価できない	
	<input type="checkbox"/> 評価できない	

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。前の二事業と同様に、評価区分の記載には注意が必要である。



1 事業概要

①概要等

②事業目的

実施事業年度	令和6年度
部門	森林部門
事業名	脱炭素社会に貢献する森林づくり事業 (①被害森林等での早生樹等の植栽等)
事業主体	市町村、森林組合、林業事業体、NPO 法人 等
事業概要	被害森林等の再造林への助成
事業開始年度	令和4年度
・脱炭素社会に貢献するため、環境保全林内の被害森林等において、早生樹等の植栽を進め、CO <sub>2</sub> の吸収量を増やすための森林づくりを推進する。	

③事業内容

④計画

⑤事業実績

○脱炭素社会に貢献する森林づくり事業費補助金

市町村森林整備計画で環境保全林に区分された被害森林や天然更新が困難な森林において、植栽等を実施。（人工造林、下刈り、雪起こし、鳥獣防止施設等整備）

・補助先:市町村、林業事業体等

・補助率:定額(県の定める標準事業費)

・市町村森林整備計画に定められた樹種や成長が早い早生樹等が対象

5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
(植栽等整備) 100 ha		20	20	20	20	20
67.17 ha		3.76	29.60	33.81		
事業費(千円)		14,340	58,188	68,232		
内訳	森林・環境税	14,340	58,188	67,674		
	(うち前年度繰越分)	0	29,976	21,252		
	他(国庫補助金等)	0	0	558		

2 自己評価

(1)実績検証(令和5年度繰越分を含む)

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	補助金額	71,425千円	67,521千円	95%	<div><div>■ 妥当である</div><div>□ 概ね妥当である</div><div>□ あまり妥当でない</div><div>□ 妥当でない</div></div>	・事業費は、計画値の95%(前年度繰越含む)の実績となり、「妥当である」とした。 ・事業結果は、計画値169%(前年度繰越含む)の実績となり、「成果が高い」とした。 ・令和6年度から補助金申請方式に事後申請を取り入れ、春植栽に早期から取り掛かることができたことと、事業地が確保できたことから、事業結果の増加につながった。		
		考え方	事業全体のコスト							
		指標名								
		考え方								
	Ⅱ 事業結果	指標名	整備面積	20ha	33.81ha	169%	<div><div>■ 成果が高い</div><div>□ 概ね成果が高い</div><div>□ あまり成果がない</div><div>□ 成果がない</div></div>			
		考え方	森林の公益的機能が回復した面積							
		指標名								
考え方										

(2)実施状況写真

⑦ 実施 状況 写真	実施	実施後	
			
	【事業実施箇所の整備状況(中津川市)】		
	施業箇所: 中津川市付知町		
	植栽樹種: カツラ、カエデ、ケヤキ、ヤマザクラ 施業面積: 0.21ha		



(3)効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法:植栽後の生長量(樹高・直径・残存本数・樹種)を確認。それをもとに、将来のCO2固定量を算定。 ②検証項目:植栽木の初期成長の確認および生長に伴うCO2固定量の算定 ③検証対象地:環境保全林 ④検証頻度:1回(植栽5年目の植栽木)	
	【検証結果】 ・効果検証の方法を確認するため、令和4年度の植栽地において、生育状況の中間調査を実施した。 ・中間調査の結果、これまでの事業地の植栽樹種は、事業発足時に想定していた早生樹ではなく、スギ、ヒノキ、広葉樹といった在来種のみとなっていた。そのため、植栽後5年が経過した時点では早生樹ほどの成長は見込めないため、植栽後5年が経過した時点での樹高、直径、残存本数、樹種を確認し、それらのデータをもとに成長曲線等から将来の二酸化炭素固定量を算定することとした。	

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己 評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・令和6年度実績は計画値に対し、169%(前年度繰越含む)の実績となった。</div> <div>・春植栽と秋植栽を実施することにより、計画値を大幅に上回った。</div> <div>・植栽樹種は、周辺の環境に悪影響を与えない在来種とした。</div> <div>・引き続き、事業地の確保や低コスト化を働きかけ、効果的な事業実施に努める。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者 評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<div>○順調に事業が行われている。</div> <div>・申請手順を見直すなど改善が見られる。さらに、広葉樹植栽の諸問題を洗い出してほしい。引き続き着実な事業の推進を望む。</div>



1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	○森林吸収源対策事業費 ・森林吸収源岐阜県モデル検討会の開催(①) ・オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会(①) ・森林信託の仕組み検討プロジェクト研究会の開催(①) ・オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会の調査事業 ・森林吸収源対策普及啓発事業(②)						
	部門	森林部門								
	事業名	脱炭素社会に貢献する森林づくり事業(②森林吸収源対策)								
	事業主体	県								
	事業概要	森林クレジットを活用した森林吸収源対策の岐阜モデル構築の検討								
	事業開始年度	令和4年度								
②事業目的	・森林信託の仕組み等を活用した、新たな森林経営の方法を検討するとともに、森林由来のカーボン・クレジット制度に関するセミナー等を開催し、制度の普及啓発を図る。		④目標	5年間の目標値		R4	R5	R6	R7	R8
				計画①	(研究会等) 45回	9	9	9	9	9
				計画②	(説明会等) 5回	1	1	1	1	1
			⑤事業実績	実績①	21回	10	6	5		
				実績②	5回	1	2	2		
				事業費(千円)		3,722	3,884	1,448		
				内訳	森林・環境税	3,722	3,884	1,448		
					(うち前年度繰越分)	0	0	0		
					他(国庫補助金等)	0	0	0		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	モデル検討会・研究会 開催事業費		1,729千円	1,404千円	72%	<input type="checkbox"/>	妥当である	・事業費は、計画値の72%の実績となったため、「概ね妥当である」とした。 ・事業結果は、検討会、研究会の開催回数が、計画値の70%の実績となったため、「概ね成果が高い」とした。 ・事業結果における、実績は計画を下回ったものの、「G-クレジット」の活用方法(公募型プロポーザル方式における評価)を拡充することができたため。
		考え方	事業費のコスト					<input checked="" type="checkbox"/>	概ね妥当である	
		指標名	普及啓発事業費		271千円	44千円		<input type="checkbox"/>	あまり妥当でない	
		考え方	事業費のコスト					<input type="checkbox"/>	妥当でない	
	Ⅱ 事業結果	指標名	モデル検討会・研究会 開催数		9回	5回	70%	<input type="checkbox"/>	成果が高い	
		考え方	開催回数					<input checked="" type="checkbox"/>	概ね成果が高い	
		指標名	普及啓発事業開催数		1回	2回		<input type="checkbox"/>	あまり成果がない	
		考え方	開催回数					<input type="checkbox"/>	成果がない	

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真				
	【G-クレジット（第1回）認証証等交付式（岐阜市）】		【セミナーの開催（美濃市）】	

(3) 効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ＜オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会の調査事業＞ ①検証方法     1～3年目：調査、検証 4～5年目：新たなクレジットモデルの構築に向け、調査、検証の結果を活用 ②検証項目     ドローンレーザーを活用した広葉樹林の現況調査 リモートセンシング技術を活用した森林資源量の調査検証 ③検証対象地     実施箇所 ④効果の検証頻度     1回（最終年度のみ）  ※最終年度以外は事業の実施状況（研究会における検討経過・普及啓発活動の実施状況など）を事業評価審議会において適宜報告する。	
	【検証結果】（事業実施状況の報告） ・広葉樹林の二酸化炭素吸収量のクレジット化に向けて、リモートセンシング技術を活用した、資源量調査方法について研究した。 ・森林由来のカーボン・クレジット制度に関するセミナーにおけるアンケート調査の結果、8割以上が制度への理解が深まった、半数以上が製 度に取り組みへ前向きな回答をする等、森林由来のカーボン・クレジット制度の普及が図られた。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<p><input type="checkbox"/> 高く評価できる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる</p> <p><input type="checkbox"/> あまり評価できない</p> <p><input type="checkbox"/> 評価できない</p>	<p>・検討会・研究会の開催回数は、計画を下回る5回だが、「Gークレジット」の活用方法(公募型プロポーザル方式における評価)を拡充することができた。</p> <p>・新たに15者がGークレジット制度に取り組むなど、森林由来のカーボン・クレジット制度への事業者の関心は高まっている。</p> <p>・今後、制度運営上の課題やクレジットの新たな活用方法等について、オフセットクレジット評価検証プロジェクト研究会等で検討する。また、森林信託の実施にあたっては、木材販売収入に加え、新たな収入源の確保が必要なことから、森林信託の仕組み検討プロジェクト研究会において、森林の様々な機能の経済価値化に関する研究を進める。</p>

3 第三者評価

⑩ 第三者 評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<p>○概ね順調に事業が行われている。</p> <p>・引き続き着実な事業の推進を望む。</p>



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	<div>○木の香る快適な公共施設等整備事業費補助金</div> <div>教育福祉関連施設において市町村や学校法人等が行う木造化や内装木質化を支援。</div> <div>・補助先:市町村、学校法人、社会福祉法人、医療法人、NPO法人等</div> <div>・補助率:木造化 17,000円/m2以内、内装木質化 10,000円/m2以内 (ともに上限30,000千円)</div>					
	部門	森林部門							
	事業名	教育福祉関連施設木造化・木質化等促進事業(①木造化・内装木質化)							
	事業主体	市町村、学校法人、社会福祉法人、医療法人、NPO法人 等							
	事業概要	教育福祉関連施設等の木造化、内装木質化の助成							
	事業開始年度	平成24年度							
②事業目的	岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例に基づき、公共施設等における県産材利用をより一層促進するとともに、木材利用や環境保全に対する理解を深めるため、特に啓発効果の高い教育福祉施設等の木造化や内装木質化を支援する。		④計画	5年間の計画値	R4	R5	R6	R7	R8
				(施設整備数) 30 施設	6	6	6	6	6
			⑤事業実績	11 施設	4	5	2		
				事業費(千円)	1,661,423	3,630,585	434,262		
				内訳	森林・環境税	59,826	75,805	16,105	
					(うち前年度繰越分)	27,676	30,000	11,118	
					他(国庫補助金等)	1,601,597	3,554,780	418,157	

2 自己評価

(1)実績検証(令和5年度繰越分を含む)

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	補助金額	80,968千円	16,065千円	20%	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input checked="" type="checkbox"/> 妥当でない	・事業費は、資材の高騰や他計画との調整に時間を要し、事業の実施が困難となり、事業計画の取下げが相次いだため、計画値の20%(前年度繰越含む)の実績となったため、「妥当でない」とした。	
		考え方	事業を実施する団体等への補助金額						
		指標名							
		考え方							
	Ⅱ 事業結果	指標名	整備施設数	6施設	2施設	33%	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input checked="" type="checkbox"/> 成果がない	・事業結果は、計画値の33%(前年度繰越含む)にあたる2施設の実績となったため、「成果がない」とした。	
		考え方	県森林づくり基本計画に定める計画値						
		指標名	県産材需要量	580㎡	218㎡	38%			
考え方		施設の整備で使用される県産材の材積							

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真		
	【日中支援型グループホームきずな(美濃加茂市)】	【下呂市複合型子ども・子育て支援拠点施設「ニコリエ」(下呂市)】



(3)効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有	
	【実施方法等】 ①検証方法:県が行う施設職員へのアンケート調査による ②検証項目:利用者の声 ③アンケート対象地:全ての整備施設 ④アンケート頻度:施設利用者に1回(翌年度)  【検証結果】 ○アンケート調査による利用者の声 ・木の香り、温もりある雰囲気、木目と白壁の美しさが子どもの原風景となることの良さなどがある。 ・柱などの木に触れ感触を知って育つことの良さがある。		

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己 評価	総合評価	理由
	<div><input type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・令和6年度の施設整備数は、計画値6施設に対し、実績は2施設(前年度繰越分1施設含む)に留まった。</div> <div>・令和6年度当初計画では、5事業者の施設を事業採択したが、うち4事業者から資材費の高騰や他計画との調整で実施困難などの理由により事業計画の取下げがあったことが主な原因と考えられる。</div> <div>・今後は事業者に対する事前ヒアリングの段階で、新たにチェックリストを用いて事業の実施能力や事業の確実性を確認する。</div> <div>・施設利用者からは木の温もりがあり、県産材を使うことへの意義・満足度が高いなどの事業効果はあるため、今後も事業者や利用者のニーズに応えるよう「ぎふ木造建築相談センター」と連携を強化し、県産材の利用を促進していく。</div>

3 第三者評価

⑩ 第 三 者 評 価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<div>○事業が停滞しており改善が必要である。</div> <div>・資材費の高騰などやむを得ない理由とはいえ、事業計画段階における事業実施能力などの確認手法について見直しが必要である。</div>



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要


①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	<div>○ぎふの木で学校まるごと木製品導入事業費補助金</div> <div>教育福祉関連施設において、市町村や学校法人等が行う木製の机や椅子、木製学習教材等の導入を支援。</div> <div>①学校等の机・椅子等の導入に対する支援</div> <div>・補助先: 市町村、学校法人、社会福祉法人等</div> <div>・補助率: 1／2以内(机・椅子等については上限18千円／セット)</div> <div>②常設版木育ひろばの備品導入支援(ぎふの木育教材導入支援事業と併せて利用)</div> <div>・補助先: 市町村、社会福祉法人、NPO法人等</div> <div>・補助率: 10/10以内(上限400千円)</div>					
	部門	森林部門							
	事業名	教育福祉関連施設木造化・木質化等促進事業(②木製品の導入)							
	事業主体	市町村、社会福祉法人、NPO法人等							
	事業概要	学校等の机・椅子等の導入の助成							
	事業開始年度	平成24年度							
②事業目的	<div>・岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例に基づき、公共施設等における県産材利用をより一層促進するとともに、木材利用や環境保全に対する理解を深めるため、特に啓発効果の高い教育関連施設等における木製の机、椅子等の木製品導入を支援する。</div>		④計画	5年間の計画値	R4	R5	R6	R7	R8
			⑤事業実績	(導入施設数)	20	20	20	20	20
				100 施設					
				66 施設	18	30	18		
				事業費(千円)	27,419	73,324	20,242		
				内訳	森林・環境税	12,980	33,778	9,382	
				(うち前年度繰越分)	0	5,020	0		
				他(国庫補助金等)	14,439	39,546	10,860		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	補助金額(千円)		19,945千円	9,365千円	47%	<input type="checkbox"/> 妥当である	<div>・事業費は、計画値の47%の実績となったが、事業結果において、計画値の90%の実績となったため、「概ね妥当である」とし、事業結果は、「成果が高い」とした。 ・実施年度途中における計画の取下げや補助金単価の少額な木製品を導入する事業主体が多い傾向があることから、導入施設数の進捗率が90%と高いのに比べて、事業投資の進捗率が低くなった。</div>	
		考え方	木製品を導入する施設等への補助金額							
		指標名						<input type="checkbox"/> あまり妥当でない		
		考え方						<input type="checkbox"/> 妥当でない		
	Ⅱ 事業結果	指標名	導入施設数		20施設	18施設	90%	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い		
		考え方						<input type="checkbox"/> 概ね成果が高い		
		指標名						<input type="checkbox"/> あまり成果がない		
		考え方						<input type="checkbox"/> 成果がない		

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真		
	【金山児童館(下呂市)】	【ひよし幼稚園(各務原市)】



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法: 県が行う事業主体へのアンケート調査による ②検証項目: 利用者の声 ③アンケート対象地: 全ての導入施設 ④アンケート頻度: 施設利用者に1回(翌年度)	
	【検証結果】 ○アンケート調査による利用者の声 ・木のぬくもりと安心を感じられる。 ・日々の生活の中でプラスチックに囲まれているので、木の柔らかい印象は必要だと思う。 ・木の製品が増えるたびに、子ども共に喜んでいきます。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる	・令和6年度の備品導入施設数は目標計画値20施設に対し実績は18施設となった。 ・学校備品として、児童生徒が使用する机(天板のみ・机椅子セットを含む)が673脚(枚)導入され、普及に貢献している。一方、実績額については、計画値を大きく下回ったことから、ぎふ木造建築ポータルにおいて優良事例の紹介などPRを強化し、県産材の利用を促進していく。 ・アンケート調査においても、「木のぬくもりと安心感を感じられる」「日々の生活の中で、プラスチックに囲まれているので、木の柔らかい印象、ぬくもりは必要だと思われる」「郷土で製作された机・椅子で学ぶことは、子どもたちの心に残っていく良い取り組みである」など好意的な意見が多数寄せられている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる	
	<input type="checkbox"/> あまり評価できない	
	<input type="checkbox"/> 評価できない	

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。



1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	○木質バイオマス利用施設導入促進事業費補助金 ・補助先:市町村、学校法人、社会福祉法人、医療法人、NPO法人、民間事業者(多くの県民の利用が十分見込まれる商業・観光・レジャー事業等を営む者に限る。)、その他知事が認めるもの ・補助率:導入経費の1/2以内の額 ・メニュー:①木質資源利用ボイラー(上限額:[R4～R6]25,000千円／施設、[R7～]4,000千円／施設) ②木質資源利用ストーブ(上限額:500千円／台) ③アドバイザー派遣							
	部門	森林部門									
	事業名	木質バイオマス利用促進事業 (①木質バイオマス利用施設の導入)									
	事業主体	市町村、学校法人、社会福祉法人、医療法人、NPO法人、民間事業者 等									
	事業概要	公共施設等における木質バイオマス利用施設の導入の助成									
	事業開始年度	平成24年度									
②事業目的	・森林内に放置された間伐材等の木質バイオマスをエネルギー資源として利用促進することにより、化石燃料から木質燃料への転換を誘導する。 ・2050年までにカーボンニュートラルの実現による脱炭素社会づくりに寄与するため、公共施設や商業施設等へ木質燃料を利用するボイラーやストーブの導入を支援する。			④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
					ボイラー 5 施設		1	1	1	1	1
					ストーブ 150 台		30	30	30	30	30
				⑤事業実績	ボイラー 0 施設		0	0	0		
					ストーブ 103 台		57	19	27		
					事業費(千円)		32,678	16,938	21,123		
					内訳	森林・環境税	15,528	6,922	8,911		
						(うち前年度繰越分)	0	0	0		
						他(国庫補助金等)	17,150	10,016	12,212		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
		指標名	補助金額(木質資源利用ボイラー)	7,455千円	0千円	0%	<input type="checkbox"/>	妥当である	・事業費については、ストーブの導入は計画を超える128%の実績となったが、ボイラーの導入が無かったため、「あまり妥当でない」とした。 ・事業結果については、計画値に対して、ストーブは90%ではあるが、ボイラーが0%の実績となったため、「妥当でない」とした。 ・ボイラーの導入については、従来ターゲットとしている温浴施設から事業実施要望がない状態が続いており、新たな施設への導入が進んでいない。
	Ⅰ 事業費	考え方	事業を実施する団体等への補助金額				<input type="checkbox"/>	概ね妥当である	
		指標名	補助金額(木質資源利用ストーブ)	6,500千円	8,348千円	128%	<input checked="" type="checkbox"/>	あまり妥当でない	
		考え方	事業を実施する団体等への補助金額				<input type="checkbox"/>	妥当でない	
	Ⅱ 事業結果	指標名	木質資源利用ボイラー導入施設数	1施設	0施設	0%	<input type="checkbox"/>	成果が高い	
		考え方	木質バイオマスの利用を促進する施設				<input type="checkbox"/>	概ね成果が高い	
		指標名	木質資源利用ストーブ導入台数	30台	27台	90%	<input type="checkbox"/>	あまり成果がない	
		考え方	木質バイオマスの利用を促進する施設				<input checked="" type="checkbox"/>	妥当でない	

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真



【導入された薪ストーブおよびペレットストーブ】



(3) 効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法: 県が行う事業主体へのアンケート調査 ②検証項目: 木質資源利用ボイラーや木質資源利用ストーブを導入した事業主体や施設利用者の声 等 ③アンケート対象地: 全ての導入施設 ④アンケート頻度: 導入した翌年度	
	【検証結果】 ・事業に対する事業主体からの評価は「とても良い」「良い」がほとんどでした。事業主体からの声として、炎が見えることの癒しや暖かさを評価する意見、化石燃料を使わず環境配慮において優れる点を評価する意見などが見られました。また、導入された薪ストーブによる普及促進効果を感じるとの意見も見られた。 ・一方で、暖房効果の立ち上がりの遅さを不満に上げる意見があり、導入先のニーズに合致する機種を検討が十分でない事例が見られた。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己 評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる	・木質資源利用ストーブについては、学校や多くの県民の来場が見込める商業施設等において導入が進み、計画に対して90%の導入を達成した。 ・木質資源利用ボイラーについては、従来の主な導入先である温浴施設から事業実施要望がない状態が続いている。このため、今後は温浴施設における需要を改めて把握するほか、温浴施設以外での既存熱源の置き換えも目指し、木質バイオマスの活用方法を広げられるよう農業施設等を対象としたアンケートや専門家によるサポート(ボイラー・ストーブの導入に向けた研修会等)を実施していく。
	<input type="checkbox"/> 概ね評価できる	
	<input checked="" type="checkbox"/> あまり評価できない	
	<input type="checkbox"/> 評価できない	

3 第三者評価

⑩ 第 三 者 評 価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○事業がやや停滞しており改善が必要がである。 ・ボイラーの導入については、導入事業の撤退も視野に入れて抜本的な見直しを行うこと。



1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	○県民協働による未利用材の搬出促進事業費補助金 ・補助先:市町村(間接補助事業者 地域で組織する協議会、NPO法人、バイオマス加工事業者、森林組合等林業事業体 など) ・補助率:市町村が助成する額の2分の1以内の額(上限額は以下のとおり) ・メニュー ①未利用材搬出 (上限額:1.5千円/t) ②搬出機械導入 (上限額:750千円/事業) ③伐採保護衣等導入 (上限額:保護衣13千円/着、保護帽6千円/個) ④研修会費用 (上限額:30千円/回)							
	部門	森林部門									
	事業名	木質バイオマス利用促進事業 (②未利用材の搬出)									
	事業主体	市町村(間接補助事業者:地域で組織する協議会、NPO法人 等)									
	事業概要	市町村と地域住民との協働による未利用材の搬出の助成									
	事業開始年度	平成24年度									
②事業目的	・森林内に放置された間伐材等の木質バイオマスをエネルギー資源として利用促進することにより、化石燃料から木質燃料への転換を誘導する。 ・2050年カーボンまでにニュートラルの実現による脱炭素社会づくりに寄与するため、市町村及び地域住民の協働によって搬出された林地残材等の取引を支援することで木質資源の循環利用を促進する。			④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
					(未利用材搬出量) 22,500 t		4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
				⑤事業実績	10,665.5 t		4,352.9	3,446.3	2,866.3		
					事業費(千円)		26,858	22,241	18,714		
					内訳	森林・環境税	6,659	5,478	4,454		
						(うち前年度繰越分)	0	0	0		
他(国庫補助金等)	20,199	16,763	14,260								

2 自己評価  
(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	補助金額(未利用材搬出)		6,750	4,279	63%	<input type="checkbox"/>	妥当である	・事業費は、計画値の63%の実績となったため、「あまり妥当でない」とした。 ・事業結果は、計画値の64%の実績となったため、「あまり成果がない」とした。 ・計画値を下回った理由として、作業員の疾病等で作業者数が減少したことや天候不良により、現場環境が悪く作業を見合わせたことにより、団体数が減少したため。
		考え方	事業を実施する団体等への補助金額					<input type="checkbox"/>	概ね妥当である	
		指標名						<input checked="" type="checkbox"/>	あまり妥当でない	
		考え方						<input type="checkbox"/>	妥当でない	
	Ⅱ 事業結果	指標名	未利用材の搬出量		4,500t	2,866.3t	64%	<input type="checkbox"/>	成果が高い	
		考え方	各地域住民組織等により搬出された未利用材の量					<input type="checkbox"/>	概ね成果が高い	
		指標名						<input checked="" type="checkbox"/>	あまり成果がない	
考え方							<input type="checkbox"/>	成果がない		

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真				
	【事業地の様子(下呂市)】			



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法: 県が行う事業主体へのアンケート調査による ②検証項目: 未利用材の搬出に取り組む地域活動組織等の要望等 ③アンケート対象地: 全ての実施箇所 ④アンケート頻度: 実施した翌年度	
	【検証結果】 ・本事業に参加した18団体の評価は「良い」が1団体(27.8%)、「普通」が10団体(55.6%)、「あまり良くない」が1団体(5.6%)であった。 ・「良い」、「普通」の理由に、「山に残木がほとんど無くなり、近年の洪水被害などの防止に少なからず繋がっていると考えています」や「林内の残材が減り助かります」、「山を綺麗にするのは必要」、「交流、情報交換の場となっている」、「高齢の作業員ばかりなので、良い仕事である」、「健康維持と地域貢献の意欲が継続できている」との意見が寄せられた。 ・「普通」と回答した中には、「数年前は活動が盛り上がったが、高齢化と後継者不足が課題」、「参加者を増やすことが出来ない」との意見があり、近年は活動参加者の確保が困難な傾向が見られた。 ・団体の今後の方針を尋ねたところ、「今後も事業を継続する」、「補助金がつけば継続する」との回答がほとんどであったが、「今回で事業をやめる」と答えた団体が若干見られた。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 高く評価できる	・令和6年度の未利用材搬出量は目標計画値4,500tに対し、実績は64%の2,866tとなった。当初計画の段階で3,649tと目標計画値に及ばなかったうえ、事業実施の段階において、疾病等による参加者の減少、天候不良による作業の停滞、作業困難による事業の見合わせなどにより、参加団体数は当初の24団体から18団体に減少した。 ・一方で、事業主体からは一定の事業効果があり、事業を継続したい等の意見が寄せられている。参加団体を増やすため、HP等で事業効果や優良事例の紹介など事業PRを行うほか、参加者の安全かつ効率的に未利用材を搬出するための研修会を開催し、本事業を引き続き推進していく。
	<input type="checkbox"/> 概ね評価できる	
	<input checked="" type="checkbox"/> あまり評価できない	
	<input type="checkbox"/> 評価できない	

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○事業がやや停滞しており改善が必要である。 ・継続的に事業を維持するために、作業従事者の健康や安全性を優先すること。労働災害と事故の防止に一層の指導を望む。



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度
	部門	森林部門
	事業名	ぎふ木育推進事業 (①-1ぎふ木遊館の管理・運営)
	事業主体	県
	事業概要	「ぎふ木育」の常設・総合的な拠点を運営する
	事業開始年度	平成30年度
②事業目的	・県民の方々が、だれでも、いつでも希望するときに、『ぎふの木』を核とした『学び』『交流・連携』『創造』『発信』のサービスを楽しみ、木育に関する新たな行動を展開できる常設の木育拠点「ぎふ木遊館」を運営する。	

③事業内容	○幅広い世代を対象に木のおもちゃでの遊び等を通じて、ぎふ木育を体験できる場を提供 ・木育イベントの開催 ・木育プログラムを実施 ・木育の指導者を育成						
	④計画	5年間の計画値	R4	R5	R6	R7	R8
⑤事業実績		(施設入館者数) 210,000 人	30,000	30,000	50,000	50,000	50,000
		146,194 人	41,331	52,716	52,147		
		事業費(千円)	76,873	76,846	84,531		
	内訳	森林・環境税	70,698	69,338	77,028		
		(うち前年度繰越分)	0	0	0		
他(国庫補助金等)		6,175	7,508	7,503			

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	運営経費	(予算額) 86,679千円	77,028千円	89%	■ 妥当である	・事業費は、入館者の拡大を図るためSNSなどで効果的なPRを実施した。また、入札等による経費の削減等により費用対効果の高い運営を行い、事業結果において、計画値以上の実績となったため、「妥当である」とした。 ・事業結果は、計画値の104%となったため、「成果が高い」とした。	
		考え方	運営事業費				□ 概ね妥当である		
		指標名					□ あまり妥当でない		
		考え方					□ 妥当でない		
	Ⅱ 事業結果	指標名	施設入館者数	50,000人	52,147人	104%	■ 成果が高い		
		考え方	木育に触れることができた人数				□ 概ね成果が高い		
		指標名					□ あまり成果がない		
		考え方					□ 成果がない		

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真			
	【入館15万人達成】	【木育プログラム】	【移動型ぎふ木遊館】



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	
	○ぎふ木遊館の管理・運営 ①検証方法:県が行う利用者へのアンケート調査による ②検証項目:利用者数、利用者の声 ③アンケート対象地:1箇所(ぎふ木遊館内) ④アンケート頻度:アンケートは随時、集計・検証は年1回	○ぎふ木育全県展開の推進 ①検証方法:県が行うぎふ木育ひろばへのアンケート調査による ②検証項目:指導者の活用状況 ③アンケート対象地:県内すべてのぎふ木育ひろば認定施設 ④アンケート頻度:年1回
	【検証結果】	
	○来館者アンケート 実施時期:R7.3.6～3.22、回答数:316件、満足度結果:「満足」「やや満足」が99.7% 主な意見:「木のぬくもりを感じて遊ぶことができた。」、「色々な木の遊具があつて楽しめました。」 「大人も子どもも楽しめる。木の雰囲気が心地良かった。」、「木のことを教えてくれたので嬉しかった。」等	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・木製遊具や木のおもちゃでの遊びのサポート、木育プログラム、フェスタなどの特別企画、人材育成に向けた研修会などを実施し、幅広い世代の方を対象にぎふ木育を推進した。</div> <div>・入館者数は52,147人となり、多くの県民にぎふ木育を体験してもらえた。</div> <div>・今後とも、関係機関と連携し、ぎふ木育を推進するとともに、各種広報等によりぎふ木遊館の魅力を周知していく。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<div>○順調に事業が行われている。</div> <div>・引き続き着実な事業の推進を望む。</div>



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度					
	部門	森林部門					
	事業名	ぎふ木育推進事業 (①-2ぎふ木育の全県展開の推進)					
	事業主体	市町村、民間事業者、NPO法人 等					
	事業概要	「ぎふ木育」の常設・総合的な拠点を運営する					
	事業開始年度	令和5年度					
②事業目的	・「ぎふ木育」を県全体に広く普及させるため、全県展開に欠かせない指導者の育成と活用、指導者の活躍の場として必要な既存施設・団体との連携、新たな地域拠点施設の整備等を行う。						
③事業内容	○ぎふ木育全県展開の推進 ・ぎふ木育指導者等ネットワークの推進 ・ぎふ木遊館、モリノス、ぎふ木育ひろばの連携強化 ・木育プログラム等の開発支援 ・ぎふ木遊館サテライト施設の整備						
④目標	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
	(ぎふ木育サポーター登録者数(累計) 400 人			250	300	350	400
⑤事業実績	300 人			242	300		
	事業費(千円)			18,787	139,991		
	内訳	森林・環境税		18,787	62,822		
		(うち前年度繰越分)		0	59,340		
		他(国庫補助金等)		0	77,169		



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法:参加者へのアンケート調査による ②検証項目:参加者数、参加者の声 等 ③アンケート対象:ぎふ木育指導者交流会、ぎふ木育ひろばでのイベント ④アンケート頻度:1回(実施年度3月)  【検証結果】 ぎふ木育指導者交流会:参加者48名、回答数:23件、平均満足度92.5% 主な意見:「交流を通じ、価値観の違いや共感について感じることができ、楽しく貴重な時間となった。」 「本来学びは楽しいものであることを再認識した。」等	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	・「ぎふ木育」の新たな地域拠点として、ぎふ木遊館サテライト施設を、8月4日に「なかつがわ 森の木遊館」、11月16日に「ひだ木遊館 木っずテラス」を開館した。 ・令和6年度中に58人がぎふ木育サポーターとして登録したことにより、ぎふ木育サポーターの登録者数は累計300人となり、100%の実績となった。 ・引き続き、ぎふ木育の全県展開を進めるため、ぎふ木育の指導者育成及び、既存施設・団体との連携を行うとともに、新たなサテライト施設の整備等を行う。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。



1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度					
	部門	森林部門					
	事業名	ぎふ木育推進事業 (②ぎふの木を使った教材の導入)					
	事業主体	市町村、学校法人、社会福祉法人、一般社団法人、NPO法人 等					
	事業概要	ぎふの木を使った教材(おもちゃ、キット等)の導入の助成					
	事業開始年度	平成24年度					
②事業目的	・将来の森林づくりを担う子どもたちに対し、木材利用や環境保全に対する理解を深めるとともに、「ぎふ木育」の取組みを進めるために、特に普及啓発効果の高い教育福祉関連施設等において、直接木を見て触れることのできる木のおもちゃ等や木製品キットの導入に対して支援することを目的とする。						
③事業内容	○ぎふの木育教材導入支援事業費補助金 ・木のおもちゃ等の導入経費の1/2以内(上限100千円／施設) ・木製品キットの導入経費の1/2以内(1キット当たり3千円を補助対象経費の上限) ・ぎふ木育教室を実施する場合、木育教材の導入経費の10/10(導入費用が20千円を超える部分は1/2)以内(1キット当たり3千円を補助対象経費の上限) ・ぎふ木育ひろば認定時、木育教材等の導入経費の10/10以内(上限100千円／施設)。地域支援拠点認定時、木育教材等の導入経費の10/10以内(上限200千円／施設)						
④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
	(木育教材導入施設数)						
	300 施設		60	60	60	60	60
	206 施設		67	72	67		
⑤事業費	事業費(千円)		7,008	9,654	8,812		
	内訳	森林・環境税	3,694	4,833	4,506		
		(うち前年度繰越分)	0	0	0		
		他(国庫補助金等)	3,314	4,821	4,306		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ事業費	指標名	補助金額		5,000千円	4,506千円	90%	■	妥当である	・事業費は、導入経費が少額な木育教材を導入する傾向が見られたため、計画値の90%の実績となったが、事業結果において、計画値以上の実績となったため、「妥当である」とした。 ・事業結果は、狙いを定めた効果的な広報により、計画値の112%の実績となったため、「成果が高い」とした。
		考え方	木育教材を導入する施設への補助金額					□	概ね妥当である	
		指標名						□	あまり妥当でない	
		考え方						□	妥当でない	
	Ⅱ事業結果	指標名	導入施設数		60施設	67施設	112%	■	成果が高い	
		考え方	木育教材を導入する施設の数					□	概ね成果が高い	
		指標名						□	あまり成果がない	
		考え方						□	成果がない	

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真		
	【ぎふの木のおもちゃ】	【教材(木製品キット)を使ったカスタネットづくり】



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	
	①検証方法:県が行う施設職員へのアンケート調査による	
	②検証項目:利用者数、利用者の声 等	
	③アンケート対象:全ての導入施設	
	④アンケート頻度:1回(翌年度5月)	
	【検証結果】	
	利用者数:3,990人、「非常によかった」が68%、「よかった」が32%	
	主な意見:「多くの子ども達に木とふれあい親しむ機会を設けることができた。」等	
	・令和7年度にも補助事業を活用する予定のある施設は58%で、補助があることで導入の動機となったり、複数年にわたり継続して木育教室を開催できるという意見があった。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる	・ぎふ木遊館を利用する保育園等への事業紹介や中学校技術科教員の集会での事業説明など広報に努め、計画を上回る67施設にぎふの木を使った教材を活用いただいた。 ・引き続き、各施設において募集チラシやホームページで事業の趣旨等を周知し、次年度以降も木材利用や環境保全に対する理解を深める取組みを進める。
	<input type="checkbox"/> 概ね評価できる	
	<input type="checkbox"/> あまり評価できない	
	<input type="checkbox"/> 評価できない	

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。



1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	<div>〈緑と水の子ども会議〉 ・小中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に対する環境教育の実施支援(講師の派遣、教材の提供、バス代負担等) (①) 〈ぎふ木育教室〉 ・幼稚園・保育園等の子育て関連施設を対象とする森と木に関する体験講座の実施(講師の派遣) (①) 〈市町村企画事業〉 ・市町村が主体となり、幅広い世代を対象として行う独自に企画する事業の活動費の助成(②)</div>						
	部門	森林部門								
	事業名	ぎふ木育推進事業 (③森や木、川に関する環境教育やぎふ木育教室の開催等)								
	事業主体	市町村、学校法人、国立大学法人等								
	事業概要	子どもたち、一般市民を対象とした、森や木や川に関する環境教育								
	事業開始年度	平成24年度								
②事業目的	・ぎふの森や木、川に関して、幅広い世代を対象に理解を深めるため、自然(森・川・里山など)の持つ様々な公益的機能やそれらの保全に関する教育、森・川・海のつながりを実感するためのフィールドを活かした環境教育、木に触れ合うことを通じて自然に親しむ体験活動などの実施に対し支援する。		④計画		5年間の目標値	R4	R5	R6	R7	R8
				計画①	(緑と水の子ども会議等参加者数) 34,000 人	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800
				計画②	(市町村支援数) 55 件	11	11	11	11	11
			⑤事業実績	実績①	22,675 人	7,015	7,033	8,627		
				実績②	29 件	8	10	11		
				事業費(千円)		32,866	30,855	34,253		
				内訳	森林・環境税	26,031	26,295	28,724		
					(うち前年度繰越分)	0	0	0		
					他(国庫補助金等)	6,835	4,560	5,529		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	事業費		9,439千円	6,248千円	82%	<input checked="" type="checkbox"/>	妥当である	・事業費は、天候不良により事業を中止した活動があり、計画値の82%の実績となったが、事業結果において、計画値以上の実績となったため、「妥当である」とした。 ・事業結果では、計画値に対し、参加者数は127%、採択件数は100%実績となったため、「成果が高い」とした。
		考え方	緑と水の子ども会議及びぎふ木育教室の開催に係る費用					<input type="checkbox"/>	概ね妥当である	
		指標名	補助金額		24,750千円	21,699千円		<input type="checkbox"/>	あまり妥当でない	
		考え方	市町村が企画する事業の補助金額					<input type="checkbox"/>	妥当でない	
	Ⅱ 事業結果	指標名	ぎふ木育の参加者数		6,800人	8,627人	127%	<input checked="" type="checkbox"/>	成果が高い	
		考え方	緑と水の子ども会議及びぎふ木育教室の参加者数					<input type="checkbox"/>	概ね成果が高い	
		指標名	採択件数		11件	11件	100%	<input type="checkbox"/>	あまり成果がない	
考え方		市町村が独自に企画する事業の件数		<input type="checkbox"/>				成果がない		



(2)実施状況写真

⑦ 実施 状況 写真		
	【緑と水の子ども会議(植栽)】	【ぎふ木育教室(森の中でサークルタイム)】

(3)効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 〈緑と水の子ども会議・ぎふ木育教室〉 ①検証方法:実施報告書による ②検証項目:実施団体等の職員が子供を観察した結果を調査 ③検証対象地:全ての実施施設 ④検証頻度:1回	
	〈市町村企画事業〉 ①検証方法:市町村からの実績報告書による ②検証項目:活動参加者数 ③検証対象地:全ての採択事業 ④検証頻度:1回	
【検証結果】 ・ぎふ木育教室では、「自分が知ったこと、森の中で経験した楽しかったこと、発見したことを、伝え合いながらも自分なりの楽しさも味わう姿があった」「木育教室として、木に触れることができ、カスタンネットもキットになっていて園児でも扱いやすい工程で良かった」という意見が多くあった。 ・緑と水の子ども会議では、「森林の管理がとても大切だと実感できました。自然の中で仕事ができる林業に魅力を感じた。」「植物を育てるということは、植物の命をあずかっていると考えると、しっかり育てていきたい。」という意見が多く見られた。 ・市町村企画事業では、「自然の大切さを子どもと一緒に学べて良かった。」「子どもが楽しそうに取り組んでいた。」という意見が多く見られた。		

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己 評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・計画値を上回る、延べ8,627人の子どもたちに参加してもらうことができた。</div> <div>・市町村企画事業の採択件数は11件であり、計画値を満たした。延べ4,757人が参加し、幅広い世代へぎふ木育を推進した。</div> <div>・今後も県内全域でぎふ木育が展開されるよう、積極的にPRを行う。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者 評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 引き続き着実な事業の推進を望む。



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	○観光景観林整備事業費補助金 ・補助先:市町村 ・補助率:不用木の除去(上限220千円／ha) 不用木の除去(伐採処理含む)(上限500千円／ha) 景観形成のための植栽(上限700千円／ha) 伐採木等の搬出(上限 7千円／m3) 【観光景観林総合整備事業のみ】 関連条件整備 38千円／ha上乗せ 整備計画策定(上限 必要経費の範囲) 附帯施設整備 1/2以内(上限10,000千円)					
	部門	森林部門							
	事業名	森林空間活用促進事業 (①観光道路周辺の観光景観林の整備)							
	事業主体	市町村							
	事業概要	景観としての価値が高い観光道路等沿いの森林の整備							
	事業開始年度	平成29年度							
②事業目的	・観光道路等から眺望ができ、景観として価値が高い森林について、観光景観林として公的関与の高い管理・整備を推進することによって、各地域の活性化を図る。		④計画	5年間の計画値	R4	R5	R6	R7	R8
				(整備面積) 500 ha	100	100	100	100	100
			⑤事業実績	150.74 ha	59.71	62.31	28.72		
				事業費(千円)	34,117	26,772	26,649		
				内訳	森林・環境税	28,652	24,114	23,879	
					(うち前年度繰越分)	0	0	0	
					他(国庫補助金等)	5,465	2,658	2,770	

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	補助金額	29,700千円	23,861千円	80%	<input type="checkbox"/> 妥当である	<div>・事業費は計画値に対し、80%となったため、「概ね妥当である」とした。 ・事業結果は、計画値に対し29%の実績となったため、「成果がない」とした。 ・事業開始から8年が経過し事業が進捗する一方で、整備しやすい事業地が減少し、境界確認や所有者特定に手間・時間を要する箇所が多くなっている。</div>	
		考え方	事業全体のコスト				<input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である		
		指標名					<input type="checkbox"/> あまり妥当でない		
		考え方					<input type="checkbox"/> 妥当でない		
	Ⅱ 事業結果	指標名	整備面積	100ha	28.72ha	29%	<input type="checkbox"/> 成果が高い		
		考え方	森林の公益的機能が改善した面積				<input type="checkbox"/> 概ね成果が高い		
		指標名					<input type="checkbox"/> あまり成果がない		
		考え方					<input checked="" type="checkbox"/> 成果がない		

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真	<div>実施前</div> 		<div>実施後</div> 	
	<div>【事業実施個所の整備状況(高山市)】</div>			



(3) 効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法: アンケートなどによる ②検証項目: 整備後の事業主体や地域住民の声の調査 ③アンケート対象地: 抽出による ④アンケート頻度: 整備後の1回(翌年度5月) ⑤実施時期: 令和5年度(5月)	
	【検証結果】 ○事業実施に対し高い評価を得られた。以下は、寄せられた意見のうち主なもの ・事業を実施したことにより利用者からはとても好評です。風の通りも良くなり、現場はさわやかな森林のイメージができました。 ・ダム沿いの見晴らしが良くなりました。 ・多くの方にこの街道を利用いただき当該地域を訪れて欲しいです。 ・見える景色がすっきりして良くなりました	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己 評価	総合評価	理由
	<div><input type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・目標整備面積100haに対し、実績は29haとなった。事業開始から8年が経過し事業が進捗する一方で、整備しやすい事業地が減少し、境界確認や所有者特定に手間・時間を要する箇所が多くなっていることが、整備面積減少の要因として考えられる。</div> <div>・ただし、事業主体や地域住民からは、整備の効果を実感した旨の意見が寄せられており、事業に対する期待も高く、さらに整備を進めていく必要性が高いと考える。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者 評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<div>○事業がやや停滞しており改善が必要である。</div> <div>・事業地の確保に向けて境界確認や所有者特定において工夫して実施する必要がある。</div>



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度									
	部門	森林部門									
	事業名	森林空間活用促進事業 (②森林空間の活用を図るための施設の設置・改修)									
	事業主体	市町村、森林組合、林業事業体、NPO法人、地域団体 等									
	事業概要	森林空間の活用を図るための施設の設置・改修									
	事業開始年度	平成24年度(里山林整備事業で実施)									
②事業目的	・森林公園等の森林空間における新規の施設整備や既存施設の改修を支援し、健康、観光、教育等、森林空間の新たな活用を図る。										
③事業内容	○森林空間施設整備促進事業費補助金 【施設整備タイプ】 ・補助率等: 上限5,000千円/施設(事業の実施は1回/施設限りとする) 【既存施設改修タイプ】 ・補助率等: 上限3,000千円/施設(事業の実施は1回/施設限りとする)										
④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8				
	(施設整備数) 40 施設		8	8	8	8	8				
⑤事業費	32 施設		12	10	10						
	事業費(千円)		27,612	40,468	34,133						
	内訳	森林・環境税	24,210	35,036	30,764						
		(うち前年度繰越分)	0	0	8,000						
		他(国庫補助金等)	3,402	5,432	3,369						

2 自己評価

(1)実績検証(令和5年度繰越分を含む)

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	補助金額	35,000千円	30,764千円	88%	■	妥当である	・事業費は、計画値の88%の実績となったが、事業結果において、計画値以上の実績となったため、「妥当である」とした。 ・事業結果は、計画値の125%の実績となり、効果的な広報により、予算内で計画を超える実績を達成できたため、「成果が高い」とした。
		考え方	事業全体のコスト				□	概ね妥当である	
		指標名					□	あまり妥当でない	
		考え方					□	妥当でない	
	Ⅱ 事業結果	指標名	実施箇所数	8施設	10施設	125%	■	成果が高い	
		考え方	施設整備及び既存施設改修実施箇所数				□	概ね成果が高い	
		指標名					□	あまり成果がない	
		考え方					□	成果がない	

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真		
	【一色保木山カタクリの里 東屋設置(関市)】	【白雲山やすらぎの森 木柵設置(郡上市)】



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法:アンケートによる ②検証項目:整備後の施設の状況、事業主体や地域住民の評価 ③アンケート対象地:1事業実施箇所につき1団体以上 ④アンケート頻度:整備後の1回(翌年度5月)	
	【検証結果】 ・アンケートの結果、「当事業で施設が整備されることにより、地域の森林空間がより利用しやすくなったと思いますか。」及び「今後、この森林空間を地域全体で保全していこうと思いますか。」との問いに対して、ほとんどの事業主体が「非常にしやすくなった」「ある程度しやすくなった」と回答した。 ・「当事業の実施後、地域の森林に入る機会が増えましたか。」という問いに対して、「非常に増えた」「ある程度増えた」と回答した事象主体が7割以上であった。 ・その他意見等に関しては、「10割補助はありがたい」「この事業は大変有効であり、また利用したい」との声があった一方、「上限が300万円だと、できることが限られていると感じた」との意見もあった。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・当事業の実施により、地域の森林空間の利用促進に貢献することができた他、森林保全の意識を高める結果にもなった。</div> <div>・アンケートにもこの事業をまた利用したいとの声もあり、森林空間を活用した施設の設置及び改修に関するニーズは高い。</div> <div>・地元住民をはじめとする人々に、森に入り、山を楽しみ、森林を知ってもらえる機会を作ることができたことから、有意義な事業と考える。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<div>○順調に事業が行われている。</div> <div>・引き続き着実な事業の推進を望む。</div>



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	○普及促進 森林空間の活用を促進するため、企業や団体等に向けたセミナーの開催や先進事例調査を実施					
	部門	森林部門							
	事業名	森林空間活用促進事業 (③森林空間を活用した活動の普及促進)							
	事業主体	県							
	事業概要	森林空間を活用した活動の普及促進							
	事業開始年度	令和4年度							
②事業目的	・森林空間活用の推進母体となる「ぎふ森のある暮らし推進協議会」を設立し、企業・団体等の様々な知見を活用し、多様な主体との連携により森林空間の活用を促進する。		④計画	5年間の計画値	R4	R5	R6	R7	R8
				(協議会会員数(者)累計) 100 者	60	70	80	90	100
			⑤事業実績	160 者	142	152	160		
				事業費(千円)	2,489	1,070	1,465		
				内訳	森林・環境税	2,489	1,070	1,465	
					(うち前年度繰越分)	0	0	0	
					他(国庫補助金等)	0	0	0	

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分	理由
	Ⅰ 事業費	指標名	事業費	1,922千円	1,465千円	76%	■ 妥当である	・事業費は、会場の選定や運営方法を工夫することで、コスト削減に努め効果的に事業目的を達成できたため、「妥当である」とした。 ・令和5年度より8者増となり、計画値の2倍の実績となったため、「成果が高い」とした。
		考え方	事業全体のコスト				□ 概ね妥当である	
		指標名					□ あまり妥当でない	
		考え方					□ 妥当でない	
	Ⅱ 事業結果	指標名	協議会会員数(者)累計	80者	160者	200%	■ 成果が高い	
		考え方	新たに設置する協議会に入会した企業等の数				□ 概ね成果が高い	
		指標名					□ あまり成果がない	
		考え方					□ 成果がない	

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真	 
【森林空間活用特別シンポジウム(岐阜市)】	



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法:アンケートによる ②検証項目:セミナーに参加した企業・団体等の声 ③アンケート対象:企業・団体等 ④アンケート頻度:1回	
	【検証結果】 「森林空間活用特別シンポジウム」実施後のアンケートでは、平均満足度が90.8%となり、「ワクワクした」、「岐阜の森の価値を改めて認識することができた」、「『モリアゲ』という言葉が印象に残った」などの感想や、「フィールドを使った研修があるといい」、「所有森林における森林空間の活用方法について」など今後に向けた要望も寄せられた。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・ぎふ森のある暮らし推進協議会の会員数は前年度より8者増え、森林サービス産業への関心の高まりを感じる。</div> <div>・森林空間の活用をテーマにした「森林空間活用特別シンポジウム」を開催し、110名の参加者に対し森林空間の活用方法の1つとして、森林サービス産業への取り組みを周知した。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<div>○順調に事業が行われている。</div> <div>・引き続き着実な事業の推進を望む。</div>



1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	○市町村等が行うニホンジカ捕獲への支援、集落ぐるみによる捕獲の体制づくりの支援、県が主体となった広域捕獲 1 市町村が作成する事業計画に基づく捕獲に対する支援 補助対象：市町村、地域協議会、農業協同組合、森林組合、農業共済組合、漁業協同組合等 ①ニホンジカの個体数調整捕獲に対する助成 (捕獲報償費 15千円/頭、捕獲に必要な物品購入費 200千円以内) ②わな捕獲を中心とした捕獲体制の整備に対する助成 (地域住民が主体的にわな捕獲を行う体制を構築するために必要な経費 1,000千円/地区以内) 2 わなによる捕獲技術の向上に係る研修会の開催(委託) 3 県が主体となったニホンジカの捕獲(委託) 4 被害防止捕獲等に従事する市町村等職員の育成に対する助成 (銃猟免許の新規取得・猟銃の所持許可・銃器等の購入に係る経費 上限500,000円/人)						
	部門	環境部門								
	事業名	野生鳥獣個体数管理事業 (①ニホンジカの個体数管理を目的とした捕獲等)								
	事業主体	市町村、地域協議会、農業協同組合、森林組合 等								
	事業概要	ニホンジカの個体数管理を目的とした捕獲に係る支援等								
	事業開始年度	平成24年度								
②事業目的	・個体数管理を目的としたニホンジカの捕獲実施により、農林業や生活環境、生態系等への被害軽減を図る。		④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
				(ニホンジカの捕獲数) 35,000 頭		7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
			⑤事業実績	20,405 頭		6,300	6,699	7,406		
				事業費(千円)		102,557	111,445	117,414		
				内訳	森林・環境税	100,807	105,440	109,889		
					(うち前年度繰越分)	0	0	0		
					他(国庫補助金等)	1,750	6,005	7,525		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	事業費		120,000千円	109,889千円	92%	<div><div>■ 妥当である</div><div>□ 概ね妥当である</div><div>□ あまり妥当でない</div><div>□ 妥当でない</div></div>	・事業費は、計画値の92%の実績となったため、「妥当である」とした。 ・事業結果は、計画値の106%の実績となったため、「成果が高い」とした。	
		考え方	事業全体のコスト							
		指標名								
		考え方								
	Ⅱ 事業結果	指標名	捕獲数(個体数調整捕獲事業・指定管理鳥獣捕獲等事業)		7,000頭	7,406頭	106%	<div><div>■ 成果が高い</div><div>□ 概ね成果が高い</div><div>□ あまり成果がない</div><div>□ 成果がない</div></div>		
		考え方	どれだけ捕獲したか							
		指標名								
考え方										

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真		【わな捕獲技術向上研修会の様子】
---------	--	------------------



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法:市町村からの報告による ②検証項目:捕獲数、野生鳥獣による農作物被害額 ③検証対象地:事業を実施した全ての市町村 ④検証頻度:1回 ⑤開始時期:令和5年度	
	【検証結果】 捕獲数:個体数調整事業6,806頭(昨年比707頭増、21市町村による)、指定管理鳥獣捕獲等事業600頭(昨年比1頭減)。 ・野生鳥獣による農作物被害額:ニホンジカによる被害が最大となった平成25年度(10,514千円)から、近年は半分以下に減少している(令和5年度は4,779千円)。令和6年度被害額は現在調査中。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・令和6年度は、目標を超える7,406頭の捕獲を行うことができた。</div> <div>・ニホンジカによる農作物被害額は近年5,000千円前後で推移を続けており、今後も農作物被害の軽減に向けて、継続的に個体数調整捕獲に取り組んでいく。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<div>○順調に事業が行われている。</div> <div>・引き続き着実な事業の推進を望む。</div>



1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	1 事業内容 市町村が実施するニホンザルの個体数調整捕獲に対する支援 2 補助率等 (1)捕獲報償費 15千円/頭 (2)捕獲に必要な物品購入費 200千円以内					
	部門	環境部門							
	事業名	野生鳥獣個体数管理事業 (②ニホンザルの個体数管理を目的とした捕獲)							
	事業主体	市町村							
	事業概要	ニホンザルの個体数管理を目的とした捕獲に係る支援							
	事業開始年度	令和6年度							
②事業目的	・個体数管理を目的としたニホンザルの捕獲実施により、農林業や生活環境への被害軽減を図る。		④計画	5年間の計画値	R4	R5	R6	R7	R8
				(ニホンザルの捕獲数) 1,014 頭			324	345	345
			⑤事業実績	287 頭			287		
				事業費(千円)			4,963		
				内訳	森林・環境税		4,705		
					(うち前年度繰越分)		0		
					他(国庫補助金等)		258		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	事業費		6,060千円	4,705千円	78%	<input type="checkbox"/> 妥当である	・事業費は、計画値の78%の実績となったため、「概ね妥当である」とした。 ・事業結果は、計画値の89%の実績となったため、「概ね成果が高いとした」。 ・計画値を下回ったのは、ニホンザルの計画的な捕獲を令和6年度から開始したこともあり、捕獲機材の不足など、実施体制に不十分なところがあったため。	
		考え方	事業全体のコスト					<input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である		
		指標名						<input type="checkbox"/> あまり妥当でない		
		考え方						<input type="checkbox"/> 妥当でない		
	Ⅱ 事業結果	指標名	捕獲数		324頭	287頭	89%	<input type="checkbox"/> 成果が高い		
		考え方	どれだけ捕獲したか					<input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い		
		指標名						<input type="checkbox"/> あまり成果がない		
考え方				<input type="checkbox"/> 成果がない						

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真	<div></div> <div>【囲いわなによる捕獲の様子】</div>
---------	---



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有	
	【実施方法等】 ①検証方法:市町村からの報告による ②検証項目:捕獲数、野生鳥獣による農作物被害額 ③検証対象地:事業を実施した全ての市町村 ④検証頻度:1回 ⑤開始時期:令和6年度		
	【検証結果】 捕獲数:個体数調整事業287頭。 ・野生鳥獣による農作物被害額:令和5年度は3,191千円(前年度比192千円減)。令和6年度被害額は現在調査中。		

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<div><input type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・令和6年度は、目標には届かなかったものの、287頭の捕獲を行うことができた。</div> <div>・ニホンザルによる農作物被害額は近年3,000千円前後で推移を続けており、生活圏における出没や人的被害が懸念される地域もある。今後も被害の軽減に向けて、継続的に個体数調整捕獲に取り組んでいく。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 引き続き着実な事業の推進を望む。



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	<div>1事業内容 市町村及び漁業協同組合等が行うカワウ、カワアイサ及びサギ類の捕獲及び追い払い等に必要な経費を補助する。</div> <div>2補助率等 (1)補助率 10／10以内で予算の範囲内の額 (2)補助限度額 1,800千円／団体</div>					
	部門	環境部門							
	事業名	野生鳥獣個体数管理事業 (③カワウやカワアイサ及びサギ類の個体数管理を目的とした捕獲)							
	事業主体	市町村、漁業協同組合連合会、漁業協同組合、NPO法人、協議会 等							
	事業概要	カワウ等の捕獲等による被害対策活動に対する支援							
	事業開始年度	平成29年度							
②事業目的	・「岐阜県カワウ被害対策指針」に基づき、春から夏にアユ漁場に飛来する「被害を与えるカワウ」が生息するコロニーやねぐら、飛来地の管理を行い、漁業被害の軽減及び環境被害の防止を図る。		④計画	5年間の計画値	R4	R5	R6	R7	R8
				(カワウ等の捕獲数) 5,000羽	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
			⑤事業実績	2,968羽	727	1,072	1,169		
				事業費(千円)	21,856	21,470	23,084		
				内訳	森林・環境税	20,208	20,194	21,826	
					(うち前年度繰越分)	0	0	0	
					他(国庫補助金等)	1,648	1,276	1,258	

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	補助金額	24,700千円	21,826千円	88%	■	妥当である	・事業費は、計画値の88%の実績となったが、事業結果において、計画値以上の実績となったため、「妥当である」とした。 ・事業結果は、計画値の117%の実績となり、狩猟期間中に効率的に捕獲できたため、「成果が高い」とした。
		考え方	事業がどれだけ実施されたか				□	概ね妥当である	
		指標名					□	あまり妥当でない	
		考え方					□	妥当でない	
	Ⅱ 事業結果	指標名	カワウ等捕獲羽数	1,000羽	1,169羽	117%	■	成果が高い	
		考え方	どれだけカワウ等を捕獲したか				□	概ね成果が高い	
		指標名					□	あまり成果がない	
考え方			□				成果がない		

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真				
	【ドローンによる追い払い活動の様子】		【防鳥糸設置作業の様子】	



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法:各漁協等からの報告、聞き取りによる ②検証項目:各漁協組合員の声、活動状況 ③検証対象地:事業実施主体管内 ④検証頻度:1回	
	【検証結果】 ・各漁協組合員の声:「カワウ対策について重要な事業だと思い、大変助かっている」「継続して支援いただきたい」等 ・活動状況:実施者27団体のうち、24団体が捕獲を実施し、カワウ1,123羽、カワアイサ16羽、サギ類30羽の計1,169羽を捕獲した。 また、うち17団体がロケット花火、防鳥糸、ドローンなどにより追い払い活動を行った。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	漁業被害等抑制のためカワウ等の被害対策活動への支援を行い、令和6年度は目標を上回る1,169羽のカワウ等を捕獲するとともに、追い払いにより河川への飛来数を減らすことができた。引き続き活動支援を行い被害対策を推進する。

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・個体群の密度管理の観点から捕獲数を決める必要がある。引き続き着実な事業の推進を望む。



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度					
	部門	環境部門					
	事業名	野生鳥獣個体数管理事業 (④大学等と連携して行う野生動物管理に関する調査研究等)					
	事業主体	岐阜県野生動物管理推進センター					
	事業概要	岐阜県の野生動物管理に関する調査研究、政策提案及び人材育成					
	事業開始年度	平成24年度					
②事業目的	・平成24年に野生動物被害防止対策に係る寄附研究部門を岐阜大学に設け、官学が連携し野生動物の調査研究や人材育成に取り組んできた。野生動物による被害防止対策の一層の強化を図るため、岐阜県と岐阜大学で共同で、実践的な野生動物管理を行うシンクタンクとしての役割を担う「岐阜県野生動物管理推進センター」を設置。 ・当センターでは、画像解析技術などを活用し、野生動物の生息状況のモニタリング調査を実施、その調査結果をもとに市町村が実施する鳥獣害対策への助言・支援や、農林業従事者、県民を対象とした研修・講座の実施など、野生動物を科学的かつ積極的に管理していく「戦略的被害対策」を推進する。						
	③事業内容 ①野生動物の生息状況調査・研究 ・野生動物広域カメラモニタリング調査・研究、ニホンジカ等の高山帯への侵入状況の調査 等 ②野生動物管理に対する技術指導 ・市町村等に対する効果的な捕獲手法・効果検証の指導 等 ③人材育成・教育支援 ・鳥獣関係行政担当者向け研修会の実施、農林高校・森林文化アカデミー等の教育支援 等 ④普及啓発 ・連続講座のオンライン開催、シンポジウム等による野生動物管理の重要性等の普及啓発 等						
④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
	(市町村等への技術指導) 50 件		10	10	10	10	10
⑤事業実績	31 件		10	11	10		
	事業費(千円)		20,157	20,192	30,291		
	内訳	森林・環境税	20,157	20,192	30,291		
		(うち前年度繰越分)	0	0	0		
		他(国庫補助金等)	0	0	0		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	野生動物管理のためのシンクタンク機関の運営費		31,000千円	30,291千円	98%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	・事業費は、計画値の98%の実績となったため、「妥当である」とした。 ・事業結果は、「技術指導」と「調査成果の発表件数」を合わせ116%にあたる29件の実績となったため、「成果が高い」とした。 ・市町村等が抱える鳥獣被害に対し、科学的な根拠に基づいた対応策を提案できた。	
		考え方	事業全体のコスト					<input type="checkbox"/> 概ね妥当である		
		指標名						<input type="checkbox"/> あまり妥当でない		
		考え方						<input type="checkbox"/> 妥当でない		
	Ⅱ 事業結果	指標名	市町村等への技術指導件数		10件	10件	116%	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が高い		
		考え方	市町村等への知見・技術等の地域貢献					<input type="checkbox"/> 概ね成果が高い		
		指標名	野生動物管理に関する調査・研究成果の発表件数		15件	19件		<input type="checkbox"/> あまり成果がない		
考え方		調査・研究成果の発信		<input type="checkbox"/> 成果がない						

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真			
	【現地での技術指導(飛騨市)】	【シカの生息状況調査(伊吹山)】	【シンポジウム「人とクマ、その距離を考える」】



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法 : 岐阜県野生動物管理推進センターからの活動実績報告による ②検証項目 : 技術指導件数と指導の内容 ③検証対象地: 全ての技術指導実施場所 ④検証頻度 : 年1回	
	【検証結果】 ・県内の市町村などに計10件の技術指導等を行い、科学的データ、知見等に基づく助言や支援を行った。具体的な例として、飛騨市の池ヶ原湿原におけるシカ・イノシシの被害に対し、現地調査を実施し、シカ・イノシシの侵入経路の把握、既存の対策の弱点の調査や、被害防止に向けた対策の指導を行った。 ・令和4年から継続的に支援しており、R4に実態把握、R5に対策の実施、R6に対策の評価、さらなる被害防止に向けた調査と専門的な機関として長期的な支援を行うことができた。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・県民等を対象に連続講座(3回)、シンポジウム(1回)、行政担当者を対象に被害防止研修1回を開催し、野生動物管理の課題や重要性等について発信した。特にシンポジウムでは県民の関心が高まっていた「クマ」をテーマとして、被害防止につながる情報発信を行った。</div> <div>・野生動物関係行政等におけるシンクタンク機関として論文7件、研究発表7件、講演5件の合計19件の発表し、市町村など関係機関に普及・啓発を行った。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<div>○順調に事業が行われている。</div> <div>・引き続き着実な事業の推進を望む。</div>



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度																					
	部門	環境部門																					
	事業名	自然生態系保全・再生事業 (①上下流域が連携した河川清掃活動の実施)																					
	事業主体	県																					
	事業概要	上下流域が連携した河川清掃活動への支援																					
	事業開始年度	平成24年度																					
②事業目的	・第2期 清流の国ぎふ森林・環境基金事業までに連携を図ったNPO法人や地域住民等民間団体と県が協働し、流域全体を対象とした河川清掃活動に連帯して取り組むことにより、流域住民の河川環境及び水環境の保全に対する意識啓発を図る。																						
												③事業内容	・県内5流域において、NPO、地域住民等民間団体と行政が連携し、ゴミの集積しやすい場所や樹木が繁茂している場所を洗い出し、集中的に清掃・整備を行う。流域が一体となり、流域住民の河川環境及び水環境の保全に対する意識啓発を図るため、県管理河川の河道内樹木の伐採・除去や、不法投棄廃棄物等の回収を行う。										
													④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8			
												(河川清掃実施数) 延べ100 河川		20	20	20	20	20					
												⑤事業実績	89 河川		31	34	24						
													事業費(千円)		29,995	29,994	29,995						
													内訳	森林・環境税	29,995	29,994	29,995						
														(うち前年度繰越分)	0	0	0						
														他(国庫補助金等)	0	0	0						

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ事業費	指標名	事業費	30,000千円	29,995千円	99%	<input checked="" type="checkbox"/>	妥当である	・事業費は、計画値の99%の実績となったため、「妥当である」とした。 ・事業結果は、計画値の120%にあたる24河川について清掃を実施したため、「成果が高い」とした。	
		考え方	河川清掃活動の実施費用				<input type="checkbox"/>	概ね妥当である		
		指標名					<input type="checkbox"/>	あまり妥当でない		
		考え方					<input type="checkbox"/>	妥当でない		
	Ⅱ事業結果	指標名	実施河川数	20河川	24河川	120%	<input checked="" type="checkbox"/>	成果が高い		
		考え方	連携して河川清掃を実施した河川数				<input type="checkbox"/>	概ね成果が高い		
		指標名					<input type="checkbox"/>	あまり成果がない		
		考え方					<input type="checkbox"/>	成果がない		

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真	実施前		実施後		長良川(郡上市白鳥町)における実施状況 実施内容:不法投棄物廃棄物回収



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法:各土木事務所からの実績報告による ②検証項目:回収した樹木や廃棄物の量 ③検証対象地:実施した回収作業すべて ④検証頻度:1回 ⑤開始時期:活動実施年度末  【検証結果】 検証の結果、回収した樹木は約361m3、不法投棄廃棄物は約1.6m3であった。連携を図ったNPO法人や地域住民等民間団体と県とが協働し、流域全体を対象とした河川清掃活動に連帯して取り組むことにより、流域住民の河川環境及び水環境の保全に対する意識啓発を図ることができた。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・令和6年度の計画値を上回る、24河川において清掃等活動を実施した。</div> <div>・県やNPO等が協働・連携し、流域全体で清掃活動を行うことにより、県民の河川環境保全意識が向上した。</div> <div>・引き続き、NPO等と連携して要対策箇所を把握しながら、清掃等活動を推進する。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<div>○順調に事業が行われている。</div> <div>・現場の声をよく聞いて、どんな問題が生じているか把握すること。</div>



1 事業概要



①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	・県管理河川及び砂防施設に設置されている魚道672箇所を対象に、県民協働で年1回程度点検を行い、魚道の状態を把握する。点検を効果的・効率的に行うため、点検の際には、岐阜県自然共生工法研究会（魚道研究専門ワーキンググループ）と連携して作成した、魚道の機能を簡便に評価できる「清流の国ぎふ・魚道カルテ」を用いる。 ・点検を踏まえて、魚道としての機能が低下していると判断された箇所については、魚道内の堆積土砂の除去等を実施し、魚道の機能回復を図る。						
	部門	環境部門								
	事業名	自然生態系保全・再生事業 (②河川魚道の改修及び適切な維持管理)								
	事業主体	県								
	事業概要	県管理河川に設置された魚道の適切な維持管理の実施								
	事業開始年度	平成24年度								
②事業目的	・長良川をはじめとした主要な河川で「魚がのぼりやすい川づくり」を推進し、魚道整備等によって魚類等の遡上・降下環境の改善対策を実施する。 ・引き続き、整備した魚道の状態の把握と適切な維持管理によって、河川の連続性の確保を図り、魚がすみやすい環境の創出を図る。		④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
				(健全な魚道の割合) 80 %		80	80	80	80	80
			⑤事業費	86.7 %		86.8	87.5	85.9		
				事業費(千円)		44,983	19,983	44,981		
				内訳	森林・環境税	44,983	19,983	44,981		
					(うち前年度繰越分)	0	0	25,000		
					他(国庫補助金等)	0	0	0		

2 自己評価

(1)実績検証(令和5年度繰越分を含む)

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	事業費	70,000千円	44,981千円	64%	■	妥当である	・事業費は、計画値に対し、64%の実績となったが、事業結果において計画値以上の実績となったため、「妥当である」とした。 ・事業結果は、点検により健全と判断された割合が85.9%を達成したため、「成果が高い」とした。 ・令和6年度は修繕が必要な魚道が少なく、経年劣化や豪雨による被災等の要因で機能不全に陥った箇所については、必要に応じて修繕を実施し、事業費内で計画を超える実績を達成した。
		考え方	魚道の適正な維持管理费用				□	概ね妥当である	
		指標名				□	あまり妥当でない		
		考え方				□	妥当でない		
	Ⅱ 事業結果	指標名	健全な魚道の割合	80.0%	85.9%	107%	■	成果が高い	
		考え方	点検により健全と判断された魚道数				□	概ね成果が高い	
		指標名				□	あまり成果がない		
考え方					□	成果がない			

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真	<div>実施前</div> 		<div>実施後</div> 	
	【高波川における実施状況（恵那市）】			



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有	
	【実施方法等】 ①検証方法:機能回復を実施した魚道における遡上可能魚類数の計測 ②検証項目:魚類遡上調査 ③検証対象地:県管理河川および砂防施設に設置された魚道 ④検証頻度:年1回程度 ⑤開始時期:事業実施年度～翌年度		
	【検証結果】 修繕前はプール部の仕切り版の設置がなく機能していなかった魚道において、修繕後、採捕調査を実施し、ウグイ180匹、カワヨシノボリ38匹等を確認することができた。魚道の適切な整備により、河川の連続性を確保することができた。		

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・県管理河川及び砂防施設に設置された全ての魚道672箇所に対して点検を実施した。</div> <div>・継続的に魚道点検を続け、経年劣化や豪雨による被災等の要因で機能不全状態に陥った箇所については必要に応じて修繕を実施し、健全な魚道の割合80%以上を達成した。</div> <div>・引き続き、簡易モニタリングの試行を進め、修繕を行った魚道の機能回復状態の評価や、補修事例集を共有し、より効率的な事業実施を図る。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<div>○順調に事業が行われている。</div> <div>・ただし、実際に魚道を遡った魚種や個体数を調査して生物的な検証を行う必要がある。</div>



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	①事前調査:事業予定箇所の魚類生息調査 ⇒ 事業主体:県(水産研究所) ②水田魚道の設置⇒ 事業主体:県(農村振興課)*一般県民と協働で設置 ③農業用排水路や河川の落差解消工事に係る補助(農地整備課) ⇒ ・事業主体:市町村、土地改良区等 ・補助率:10/10、上限5,000千円 ④事後調査:事業箇所の魚類生息調査 ⇒ 事業主体:県(水産研究所) ⑤環境学習会の開催等による普及啓発 ⇒ 事業主体:県(農村振興課・水産研究所)					
	部門	環境部門							
	事業名	自然生態系保全・再生事業 (③水田魚道の設置等による水みちの連続性確保及び効果検証)							
	事業主体	市町村、土地改良区 等							
	事業概要	水田及び農業用排水路内の生態系回復と、環境改善の普及促進							
	事業開始年度	平成24年度							
②事業目的	・面的な広がりを持った水みちの連続性を確保し、河川や農地に生息する魚類の繁殖や生息空間を再生するとともに、地域住民や農業従事者等に対し、生態系回復の成果を基にした普及啓発活動を展開する。		④計画	5年間の計画値	R4	R5	R6	R7	R8
				(整備等に取り組む地区数) 20 地区	4	4	4	4	4
			⑤事業実績	17 地区	6	6	5		
				事業費(千円)	3,298	3,607	2,851		
				内訳	森林・環境税	3,298	3,607	2,851	
					(うち前年度繰越分)	0	0	0	
					他(国庫補助金等)	0	0	0	

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	ハード整備事業費		3,000千円	213千円	41%	<input checked="" type="checkbox"/>	妥当である	・事業費は、効率的に事業を実施したことで経費を削減し、計画値の41%の実績となったが、事業結果において、計画値を上回る実績となったため、「妥当である」とした。 ・事業結果において、計画値の125%の実績となったため、「成果が高い」とした。
		考え方	水田魚道設置、落差解消事業費					<input type="checkbox"/>	概ね妥当である	
		指標名	ソフト対策事業費		4,000千円	2,638千円		<input type="checkbox"/>	あまり妥当でない	
		考え方	効果検証、事業普及啓発事業費					<input type="checkbox"/>	妥当でない	
	Ⅱ 事業結果	指標名	ハード整備に取り組む地区数		1地区	1地区	125%	<input checked="" type="checkbox"/>	成果が高い	
		考え方	水田魚道設置または落差解消地区数					<input type="checkbox"/>	概ね成果が高い	
		指標名	ソフト対策に取り組む地区数		3地区	4地区		<input type="checkbox"/>	あまり成果がない	
		考え方	住民協働による普及啓発活動の実施地区数					<input type="checkbox"/>	成果がない	

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真			
	【水田魚道設置研修会の様子①(養老町)】	【水田魚道設置研修会の様子②(養老町)】	【水田魚道設置後(養老町)】



(3) 効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法:農業用排水路調査 ②検証項目:落差解消路線における魚類数 ③検証対象地:落差解消された農業用排水路 ④検証頻度:年1回 ⑤開始時期:事業実施年度～翌年度	
⑧ 効果 検証	【検証結果】 ①検証項目:河川・農業用水路の落差解消で魚類の種数/捕獲個体数の増加をほぼ確認(関市千疋:4種→13種／ 44個体→315個体、 関市上白金:3種→ 2種／ 22個体→13個体、可児市今:4種→ 6種／213個体→493個体、養老町石畑:7種→ 6種／ 95個体→ 48個体) ②検証方法:落差解消された農業用排水路 ③検証対象地:4ヵ所(関市千疋、関市上白金、可児市今、養老町石畑) ④検証頻度:1日/1ヵ所 ⑤開始時期:事業実施年度～翌年度	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己 評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・計画値に対し、ハード対策で100%、ソフト対策で133%の実績を達成した。(地区数ベース)</div> <div>・水田魚道の設置により、魚類が水田で繁殖することを期待する。</div> <div>・過去に落差解消をした部分について、効果検証を行った結果、半数の地区で遡上数の増加が確認されたことから、水みちの連携に貢献できていると考える。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者 評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<div>○順調に事業が行われている。</div> <div>・引き続き着実な事業の推進を望む。</div>



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容								
	部門	環境部門									
	事業名	自然生態系保全・再生事業 (④生物多様性の保全・再生の普及啓発)									
	事業主体	県									
	事業概要	シンポジウムの開催等による生物多様性の保全・再生の普及啓発									
	事業開始年度	平成24年度									
②事業目的	・県民、企業、市町村、民間団体等の各主体が、それぞれの立場で生物多様性の保全について考え、行動に取り組む契機として、生物多様性シンポジウムを開催する。シンポジウムの開催にあたっては、より多くの県民に参加いただけるよう、DX技術を活用したデジタル配信を実施する。 ・民間や県が取り組む希少野生生物等の保護活動を教材とする出前講座、体験学習等により県民の学習の機会を提供する。			④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
					(シンポジウム等の開催) 70回		14	14	14	14	14
				⑤事業実績	80回		28	32	20		
					事業費(千円)		1,000	961	1,291		
					内訳	森林・環境税	1,000	961	1,291		
						(うち前年度繰越分)	0	0	0		
						他(国庫補助金等)	0	0	0		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	生物多様性普及啓発に関する事業費	1,000千円	351千円	65%	<input checked="" type="checkbox"/>	妥当である	・事業費は、シンポジウムを岐阜大学と共催したことにより、事業費を削減し、計画値に対し65%の実績となったが、事業結果において、計画値以上の実績となったため、「妥当である」とした。 ・事業結果は、積極的に出前講座等を実施したことにより、計画値に対し143%の実績となったため、「成果が高い」とした。
		考え方	事業費のコスト				<input type="checkbox"/>	概ね妥当である	
		指標名	希少種保全・体験等に関する事業費	1,000千円	940千円		<input type="checkbox"/>	あまり妥当でない	
		考え方	事業費のコスト				<input type="checkbox"/>	妥当でない	
	Ⅱ 事業結果	指標名	シンポジウム等実施回数	7回	16回	143%	<input checked="" type="checkbox"/>	成果が高い	
		考え方	普及啓発等活動数				<input type="checkbox"/>	概ね成果が高い	
		指標名	希少種の保全体験等実施回数	7回	4回		<input type="checkbox"/>	あまり成果がない	
考え方		保全体験等活動数	<input type="checkbox"/>				成果がない		

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真			
	【生物多様性シンポジウム】	【出前講座】	【イタセンパラ展示飼育】



(3) 効果検証

⑧ 効果検証	実施の有無	有	
	【実施方法等】 ①検証方法：参加者へのアンケート調査等による ②検証項目：生物多様性や希少種保全に関する理解度 ③アンケート対象地：普及啓発活動等の実施場所 ④アンケート頻度：年1回		
	【検証結果】 アンケート結果では理解度が98%、満足度は98%であったことから、開催効果は確認できた。		

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・生物多様性に関するシンポジウムや講習会等を計20回開催し、580名に希少種の生態や絶滅危惧種の保全に関する啓発を行った。</div> <div>・シンポジウムは、岐阜大学と共催で岐阜県の絶滅危惧植物と外来植物をテーマに開催し、WEB配信も実施したことで、より多くの県民に啓発を行った。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	<div>○順調に事業が行われている。</div> <div>・引き続き着実な事業の推進を望む。</div>



1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度						
	部門	環境部門						
	事業名	自然生態系保全・再生事業 (⑤生態系保全・再生に係る活動支援)						
	事業主体	市町村、NPO法人、地域団体 等						
	事業概要	生態系保全活動の実施への支援						
	事業開始年度	団体支援、市町村支援(農務部門):平成24年度 市町村支援(環境部門):令和3年度						
②事業目的	・団体等や、市町村がおこなう里地里川の生態系保全の取り組みを支援することにより、県内の里地里川における生態系保全につなげる。 ・貴重な自然環境の保全や特定外来生物の防除など、市町村が地域住民との協働で取り組む活動を支援し、地域の生態系の保全と再生を図る。							
③事業内容	【生態系保全団体支援事業】ア) 生態系に配慮した農業用水路の整備、水田や用排水路等を活用した環境教育の実施など、里地里川の生態系を復活するモデル的取り組みへの支援 ・補助先:特定非営利活動法人、地域団体等 ・補助率:10／10(上限2,000千円／1団体) ・実施方法:公募により選定 ・公募による選定会議の費用含む。(200千円) 【生態系保全市町村支援事業(農務部門)】イ) 用排水路におけるスクミリンゴガイの駆除など、農地・農業用施設を対象とする生態系保全に取り組む市町村を支援 ・補助先:市町村 補助率:1／2(上限1,000千円／1市町村) 【生態系保全市町村支援事業(環境部門)】ウ) 貴重な自然環境の保全や特定外来生物の駆除など、農地・農業用施設以外を対象とする生態系保全に地域住民と協働で取り組む市町村を支援 ・補助先:市町村 ・補助率:1／2(上限5,000千円、下限500千円／1市町村)							
	④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
		(団体・市町村数) 120団体		24	24	24	24	24
	⑤事業実績	61団体		21	20	20		
		事業費(千円)		29,720	28,489	59,668		
		内訳	森林・環境税	29,720	28,489	29,705		
			(うち前年度繰越分)	0	0	0		
			他(国庫補助金等)	0	0	29,963		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	ア) 補助金額		9,800千円	5,900千円	60%	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	・事業費は、計画に対して団体支援は60%、市町村補助は82%の実績となったため、「概ね妥当である」とした。団体支援では、団体が創意工夫を凝らした活動を実施し、事業経費を削減したため、実績額は少なくなった。 ・事業結果では、計画に対して実施団体数は86%、市町村数は82%の実績となったため、「概ね成果が高い」とした。 ・どちらも、計画を下回ったものの、継続した取り組みとして地域に活動が根付いている。	
		考え方	事業を実施する団体への補助金額							
		指標名	イ) 補助金額		9,000千円	6,821千円	82%			
		考え方	市町村(農務部門)への補助金額							
		指標名	ウ) 補助金額		19,950千円	16,899千円				
		考え方	市町村(環境部門)への補助金額							
	Ⅱ 事業結果	指標名	ア) 実施団体数		7団体	6団体	86%	<input type="checkbox"/> 成果が高い <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が高い <input type="checkbox"/> あまり成果がない <input type="checkbox"/> 成果がない		
		考え方	生態系保全活動を実施する団体数							
		指標名	イ) 実施市町村数		8市町村	9市町	82%			
		考え方	事業を実施する市町村(農用地)数							
		指標名	ウ) 実施市町村数		9市町村	5市町				
		考え方	事業を実施する市町村(農用地外)数							



(2)実施状況写真

⑦ 実施 状況 写真			
	【子ども達への環境教育】	【スクミリンゴガイ駆除の様子】	【池ヶ原湿原外来種等除去作業】

(3)効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有	
	【実施方法等】 ア【生態系保全団体支援事業】  ①検証方法:各団体からの活動実績報告(完了後3年間) ②検証項目:各団体の活動継続状況 ③検証対象:全ての補助金交付団体 ④検証頻度:年1回(3年間)	イ【生態系保全市町村支援事業(農務部門)】  ①検証方法:市町村からの発生状況報告 ②検証項目:スクミリンゴガイ、ヒシ等の発生状況 ③検証対象地:補助市町村(定点調査(1路線)) ④検証頻度:1回(翌年度)	ウ【生態系保全市町村支援事業(環境部門)】  ①検証方法:市町村からの参加住民アンケートの実施報告 ②検証項目:生態系保全に協働で取り組んだ地域住民の意識 ③検証対象:補助市町村(参加住民) ④検証頻度:年1回
	【検証結果】 ア【生態系保全団体支援事業】実施した6団体の内、5団体が過年度から継続して活動を続けており、地域に根付いた生態系保全の取り組みがなされている。 イ【生態系保全市町村支援事業(農務部門)】前年度までの実績やマニュアルの活用により、効率的な駆除が行われている。 ウ【生態系保全市町村支援事業(環境部門)】実施したすべての団体が過年度から継続して活動を続けており、地域に根付いた生態系保全の取り組みがなされている。		

(4)自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己 評価	総合評価	理由
	<div><input type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・採択された団体では、これまで実施してきた水田魚道を活用した生息状況調査、子どもたちを対象とした環境教育の実施など、里地里川の生態系を復活するモデル的な取り組みが行われた。</div> <div>・6市3町で活動を行い、スクミリンゴガイは成貝・卵6.2tを、ヒシは0.52t駆除することができた。</div> <div>・特定外来生物防除や貴重な自然環境の保全等の取り組みを推進することで、生態系保全・再生に対する地域住民の意識向上が図られた。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者 評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○概ね順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。



令和6年度 清流の国ぎふ森林・環境基金事業 評価シート

1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	①脱炭素社会ぎふを支える人づくり推進事業 ・「森・里・川・海」自然体験交流プログラムや環境問題の体験と行動変容促進のためのプログラムの実施 ②カーボン・オフセットに係る理解促進及び人材育成事業 ・カーボン・オフセット及びJクレジットセミナーの開催、ぎふエコアクション学生アンバサダーの育成及び活用 ③次代の環境活動を担う人材育成支援事業 ・市町村が自ら企画・立案・実行する次代の環境活動を担う人材育成事業への支援 ④地域団体等が行う小水力発電施設を活用した環境教育推進事業 ・農業水利施設や水路等に設置した小水力発電施設を活用した環境学習を実施する団体を支援							
	部門	環境部門									
	事業名	脱炭素社会ぎふづくり事業 (①脱炭素社会ぎふを支える人づくり)									
	事業主体	市町村、地域団体 等									
	事業概要	「脱炭素社会ぎふ」実現に向けた行動変容を実践する人づくり事業の実施									
	事業開始年度	令和4年度									
②事業目的	・「脱炭素社会ぎふ」の実現を支える人づくりを進めるため、カーボン・オフセットや地球温暖化、環境負荷の軽減、自然環境の保全、生物多様性などの環境問題について、県民が自らの問題として考え、行動変容の実践につながるよう、理解促進のための啓発活動や、自然環境体験・環境学習などの実体験・学びの場での活動等の事業を実施する。			④計画	5年間の計画値	R4	R5	R6	R7	R8	
					(体験プログラム等参加者数) 2,500 人	500	500	500	500	500	
				⑤事業実績	1,184 人	290	408	486			
					事業費(千円)	25,259	18,502	17,670			
					内訳	森林・環境税	17,854	18,041	17,188		
						(うち前年度繰越分)	0	0	0		
						他(国庫補助金等)	7,405	461	482		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分		指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	事業費		11,000千円	9,698千円	78%	<input type="checkbox"/> 妥当である	・事業費は、イベント開催時における経費削減に取組み、計画値の78%の実績となったため、「概ね妥当である」とした。 ・事業結果は、計画値の97%の実績となったため、「成果が高い」とした。	
		考え方	県実施事業(①、②)のコスト							
		指標名	補助金額		11,000千円	7,490千円		<input type="checkbox"/> 概ね妥当である		
		考え方	市町村(③)・地域団体等(④)の活動に対する補助金額					<input type="checkbox"/> あまり妥当でない		
	Ⅱ 事業結果	指標名	参加者数		500人	486人	97%	<input type="checkbox"/> 妥当でない		
		考え方	体験プログラム等への参加者数(①、④)					<input type="checkbox"/> 成果が高い		
		指標名	実施事業件数		4件	4件		<input type="checkbox"/> 概ね成果が高い		
考え方		市町村による人づくり活動が実施された件数(③)		<input type="checkbox"/> あまり成果がない						
							<input type="checkbox"/> 成果がない			

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真					
	【① 森遊びを通じた森林学習】	【② 学生アンバサダー育成研修】	【② カーボン・オフセットセミナー】	【③ 自然体験型川づくり教室】	【④ 発電施設の見学】



(3) 効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有
	【実施方法等】	
	①脱炭素社会ぎふを支える人づくり推進事業、 ②カーボン・オフセットに係る理解促進及び人材育成事業	③次代の環境活動を担う人材育成支援事業、 ④地域団体等が行う小水力発電施設を活用した環境教育推進事業
	検証方法: アンケートによる 検証項目: 参加者数、参加前後における参加者の理解・関心、 環境保全意識の向上 アンケート対象地: 全ての実施事業 アンケート頻度: 事業実施の都度	検証方法: 事業実施主体からの実績報告書による 検証項目: 各採択事業で設定された目標数値に対する達成状況、参加者数 検証対象地: 全ての採択事業 検証頻度: 年1回
	【検証結果】	
①参加人数300人の目標数値に対し実績は319人、達成率106%であった。また、参加者に対するアンケートでは、回答者の98%が「自然環境への関心・理解が高まった」、97%が「自然とかかわる意欲が高まった」と回答し、87%が「家庭で自然環境・環境保全に対する親子の会話がある」と回答した。		
②カーボン・オフセットセミナーにおけるアンケート回答者の89%が「参考になった」と回答し、53%が「温室効果ガスの削減意欲が増した」と回答した。		
③採択した4事業について、環境講座、自然環境活動などにおける合計参加人数1,559人の目標値に対し、実績が997人となり、63.9%の達成率となった。		
④令和6年度の参加者は167人となり目標に達しなかった。活動回数も例年より多くなったが、各活動のPR不足により参加者が目標の200人に届かなかったことが主な要因と考えられる。しかし、地元小学生等が小水力発電施設を見学することで、より興味を持って地球温暖化などの環境問題について学習していただけたため、「脱炭素社会ぎふ」を支える人づくりを推進することができた。		

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己 評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる	・事業結果は、計画値に対して97%の実績値となった。④において、例年の2～3倍の参加者があり、環境教育を実施した施設においては、「脱炭素社会ぎふ」を支える人づくりについて推進することが出来たため、概ね評価できる。 ・また、参加者からは「自然環境への関心・理解が高まった」「温室効果ガス削減意欲が増した」「地球温暖化対策に関する自身の意識や行動が変わった」という声を多くいただいたことから、環境保全の取組みを後押しする効果が期待できる。
	<input type="checkbox"/> 概ね評価できる	
	<input type="checkbox"/> あまり評価できない	
	<input type="checkbox"/> 評価できない	

3 第三者評価

⑩ 第三者 評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。



1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	○地域循環共生圏促進事業費補助金 事業主体自らが計画から実行まで行う、地域循環共生圏構想の推進につながる活動（構想を知り広めるためのシンポジウム開催、関係する主体を増やしネットワークを構築するための事業、戦略を立てるための事業計画等の作成など）に対して支援 ・補助先:市町村、法人、団体等 ・補助率:補助対象経費の10/10（上限:1,000千円、下限:300千円） ・実施方法:公募により選定						
	部門	環境部門								
	事業名	脱炭素社会ぎふづくり事業 (②地域循環共生圏構想の促進)								
	事業主体	市町村、団体、法人								
	事業概要	地域循環共生圏構想につながる活動に対する支援								
	事業開始年度	令和4年度								
②事業目的	・森林・河川など地域が有する「自然資源」、食糧生産・酸素供給などの生物多様性がもたらす恵みである「生態系サービス」、「資金・人材」などを活かして、自立・分散型の社会を形成しながらも、地域の特性に応じて地域資源を補完し支えあう「地域循環共生圏構想」について、市町村、団体・企業等が構想を推進するための支援を行う。		④計画	5年間の計画値		R4	R5	R6	R7	R8
				(地域循環共生圏づくりプラットフォーム登録団体数) 15団体		5	5	5		
			⑤事業実績	10団体		0	0	10		
				事業費(千円)		1,340	2,387	3,332		
				内訳	森林・環境税	1,340	2,387	1,939		
					(うち前年度繰越分)	0	0	0		
					他(国庫補助金等)	0	0	1,393		

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分	理由
	Ⅰ 事業費	指標名	補助金額	5,000千円	1,939千円	39%	■ 妥当である	・事業費は、計画値に対し、39%の実績となったが、事業結果において、計画値を上回る実績となったため、「妥当である」とした。 ・事業結果は、停止していたプラットフォームへの登録手続きが再開されたことにより、令和6年度までに補助を受けた全4団体及び独自に活動に取り組んだ6団体がプラットフォームに登録され、計画値の200%の実績となったため、「成果が高い」とした。
		考え方	地域循環共生圏構想につながる活動への補助金額				□ 概ね妥当である	
		指標名					□ あまり妥当でない	
		考え方					□ 妥当でない	
	Ⅱ 事業結果	指標名	地域循環共生圏づくりプラットフォーム登録団体数	5団体	10団体	200%	■ 成果が高い	
		考え方	構想の実現に向けて取り組んだ地域数				□ 概ね成果が高い	
		指標名					□ あまり成果がない	
		考え方					□ 成果がない	

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真			
	【里・山・川の保全・活用を通じた地域おこし(地域循環共生圏促進)推進事業】	【持続可能な山県「ローカルSDGs地域循環共生圏」推進事業】	【飛騨地域の森に関わる仕事と暮らしの地域循環共生圏ネットワーク構築事業「森のバトン」】



(3) 効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有	
	【実施方法等】 ①検証方法: 事業実施主体からの実績報告書による ②検証項目: 各採択事業で設定された目標数値に対する達成状況 ③検証対象地: 全ての採択事業 ④検証頻度: 年1回		
	【検証結果】 採択した3事業のうち2事業については、セミナー・会議、事例視察などにおける参加人数を目標数値(2事業合計で294名)として設定していたが、参加実績は計187名となり、目標数値の64%となった。うち1事業はイベント型啓発事業を開催し、イベント参加者数を目標数値(4日計2,400名)としていたが、参加実績は4日計1,300名となり、目標数値の54%となった。		

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己 評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる	・事業結果は、計画値に対して200%の実績となった。これは、停止していたプラットフォームへの登録手続きが再開されたことにより、令和6年度までに補助を受けた全4団体及び独自に活動に取り組んだ6団体がプラットフォームに登録されたことによるもの。 ・各地域における自然環境の保全を絡めたまちづくりの必要性や地域特性の再確認など、今後の取組みに向けた検討などが進むとともに、多くの市民が参加するイベントが開催されるなど、「地域循環共生圏」の取組みが推進された。 ・一方で、地域循環共生圏の実施主体は市町村が中心となることから、脱炭素社会ぎふづくり事業(①脱炭素社会ぎふを支える人づくり)へ事業を統合し、地域循環共生圏構想の理念を継承する。
	<input type="checkbox"/> 概ね評価できる	
	<input type="checkbox"/> あまり評価できない	
	<input type="checkbox"/> 評価できない	

3 第三者評価

⑩ 第三者 評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見
	○順調に事業が行われている。 ・引き続き着実な事業の推進を望む。



1 事業概要

①概要等	実施事業年度	令和6年度	③事業内容	○清流の国ぎふ地域活動促進事業費補助金 各種団体等が自ら企画・立案・実行する創意工夫を凝らした森づくりや川づくり活動を支援する。 (1) 県民参画を促進する森づくり・川づくりの活動 (2) 水環境や生物多様性の保全を目指す活動 (3) 子どもたちのための森づくり・川づくりの活動 (4) 上記(1)～(3)の活動のうち、特に対策が必要である課題に対してモデル的に行われる活動(令和6年度は実績なし) ・補助先:団体、法人 ・補助率(1)～(3):補助対象経費500千円以下:10／10以内、 補助対象経費500千円を超える分:1／2以内 (補助金上限2,000千円／事業、下限300千円／事業)								
	部門	共通部門		④計画	5年間の計画値	R4	R5	R6	R7	R8		
	事業名	清流の国ぎふ地域活動促進事業			(活動実施団体数) 250団体	50	50	50	50	50		
	事業主体	団体、法人			155団体	52	53	50				
	事業概要	各種団体等が行う森づくり・川づくり活動等に対する助成			事業費(千円)	49,196	43,413	40,605				
	事業開始年度	平成24年度			内訳	森林・環境税	26,802	26,091	24,776			
②事業目的	・県内の法人、団体が主体となって自ら企画・立案・実行する創意工夫ある森づくりや川づくり及び水環境等の保全活動を支援する。					(うち前年度繰越分)	0	0	0			
						他(国庫補助金等)	22,394	17,322	15,829			

2 自己評価

(1)実績検証

⑥実績検証	指標区分	指標名・考え方		計画値	実績値	進捗率	評価区分		理由
	Ⅰ 事業費	指標名	補助金額	29,600千円	24,581千円	83%	<div><div>■ 妥当である</div><div>□ 概ね妥当である</div><div>□ あまり妥当でない</div><div>□ 妥当でない</div></div>	・事業費は、団体数の減少により、計画値に対し83%の実績となったが、事業結果において、計画値以上の実績となったため「妥当である」とした。 ・一方、事業結果では、計画値の100%にあたる50件の活動を支援することができたため、「成果が高い」とした。	
		考え方	森・川づくり活動等を行う団体等への補助金額						
		指標名							
		考え方							
	Ⅱ 事業結果	指標名	実施事業団体数	50団体	50団体	100%	<div><div>■ 成果が高い</div><div>□ 概ね成果が高い</div><div>□ あまり成果がない</div><div>□ 成果がない</div></div>		
		考え方	県民参加による、森・川づくり活動の件数						
		指標名							
考え方									

(2)実施状況写真

⑦実施状況写真		
	【事業名: 森づくりへの参加】 (実施団体: 木の駅上石津実行委員会)	【事業名: 「お山と小川で遊ぼう!!」N 山県】 (実施団体: といろ)



(3) 効果検証

⑧ 効果 検証	実施の有無	有
	【実施方法等】 ①検証方法:事業主体からの実績報告による ②検証項目:活動参加者数 ③検証対象:全事業 ④検証頻度:1回 ⑤開始時期:令和5年度	
	【検証結果】 本事業は、継続して事業を活用する団体の他、新規に取組みを始める団体も見られ、令和6年度は50団体のうち6団体が新規団体であり、1,036人の参加があった。事業が継続することで参加者数は増え、県民参画の活動の広がりが期待できる。	

(4) 自己評価(総合) ※担当課所属長記入

⑨ 自己 評価	総合評価	理由
	<div><input checked="" type="checkbox"/> 高く評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> 概ね評価できる</div> <div><input type="checkbox"/> あまり評価できない</div> <div><input type="checkbox"/> 評価できない</div>	<div>・計画50団体に対し、実績は50団体の進捗率100%となり、50団体のうち6つの新規団体に対し支援した。令和5年度に支援した53団体と比較し、実施団体数は減少しましたが、その理由として、団体の初期投資のみ支援を受けて自立した団体や担い手が不足し事業が実施できない団体が当事業を活用しなかったことが考えられる。</div> <div>・活動には延べ20,754人が参加し、多くの県民の皆さんに環境保全について関心をもっていただいた。</div>

3 第三者評価

⑩ 第三者 評価	清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会意見